

勉誠出版

日本中国学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: e779304769

(使用期限: ~2021年11月30日)

謹啓

秋麗の候、日頃より弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
このたび、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: e779304769 (使用期限: ~2021年11月30日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください!

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。

- ・**3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス**

(※ 3000円未満の場合は送料一律 300円。なお日本国外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
日本中国学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

最新の出版総合目録は
右のQRコードから
ダウンロードいただけます。



勉誠出版 注文書	ご送付先 (氏名・住所・電話番号)
Email info@bensei.jp FAX 03-5215-9025	
<p>※メール、FAX、郵送にてご注文を承ります。 ※弊社ホームページのホーム画面上部のバナー「研究書 新刊・近刊のご案内」、 もしくはお知らせ欄「研究書 新刊・近刊のご案内」より、注文書(PDFかエクセル)をダウンロードしてご 記入のうえ、メールかFAXにて、お送りください。 ※メールやFAXの送り状の本文に直接ご注文内容をご記載いただくかたちでも結構です。</p>	通信欄 ※お支払い方法(公費・私費)、必要書類はこちらにご記入ください

※ISBNは978-4-585と末尾のチェックデジットを省略しています。

書名	編者	刊行年月	ISBN	本体価格	割引価格	冊数
◆近刊(ご予約受付中!)						
慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	慶應義塾大学論語疏研究会 編	2021/10	31004	18,000	15,840	
室町文化の座標軸—遺明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	32011	9,800	8,824	
日記と報道挿絵が伝える庶民たちの日常戦争	西川武 著	2021/10	32008	予価2,800	2,464	
英国初期印刷本研究への誘い—書誌学から文学・社会・歴史研究へ	向井剛 著	2021/10	32012	予価6,000	5,280	
近代日本語教科書語彙索引	伊藤孝行 編	2021/10	38002	8,000	7,040	
書物に魅せられた奇人たち(仮)—英国愛書家列伝(仮)	高宮利行 著	2021/10	39005	予価3,800	3,344	
人物から知る 妖怪学前史(仮)—明治から昭和まで(仮)	伊藤慎吾・水原享水泉 編	2021/10	32010	予価2,800	2,464	
合戦図 描かれた<武>	中根千絵・薄田大輔 編	2021/11	32013	16,000	14,080	
中世神道入門	伊藤聡・門屋 監修／新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2021/11	31006	3,800	3,344	
玄奘三蔵—新たななる玄奘像をもとめて	佐久間秀範・近本謙介・本井牧子 編	2021/11	31005	12,000	10,560	
中国史書入門 現代語訳 北斉書	氣賀澤保規 監修／池田恭毅・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/秋	29612	6,000	5,280	
坂口安吾大事典(仮)	安藤 宏・重田裕一・大原祐治 編集代表	2021/秋	20079	15,000	13,200	
◆新刊						
日本中世社会と村住人	蔵持重裕 編	2021/9	32009	9,500	8,360	
古建築調査ハンドブック	山岸常人・岸泰子・登谷伸宏 著	2021/8	35000	1,400	1,232	
日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/8	31003	12,000	10,560	
中世武家領主の世界—現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/8	32003	3,800	3,344	
戦国時代劇メディアの見方・つくり方—戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/9	32006	3,200	2,816	
近世の村と百姓	渡辺尚志 著	2021/8	32002	9,800	8,624	
杉田玄白と江戸の蘭学塾—「天真樓」塾とその門流	片桐一男 著	2021/7	32004	7,000	6,160	
首里城を解く—文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修／島村幸一 編	2021/9	32001	3,800	3,344	
説話の東アジア—『今昔物語集』を中心に	高陽 著	2021/9	39004	12,000	10,560	
怪異学講義—王権・信仰・いとみなみ	東アジア怪異学会 編	2021/9	32007	3,200	2,816	
もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	2021/7	39001	2,400	2,112	
谷崎潤一郎 美と生命の間	柴田勝二 著	2021/7	39003	3,600	3,168	
◆事典・総記						
江戸川乱歩大事典	落合教幸・阪本博志・藤井淑禎・渡辺憲司 編	2021/3	20080	12,000	10,560	
文化情報学事典	村上征勝 監修／金明哲・小木曾智信・中國聡・矢野桂司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 編	2019/12	20071	18,000	15,840	
◆歴史・文化財・美術史・思想史						
書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/6	30002	16,000	14,080	
古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/1	22277	3,000	2,640	
増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/2	22280	3,800	3,344	
古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編 国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	22272	7,800	6,864	
日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	20073	7,000	6,160	
古文書研究 第91号	日本古文書学会 編	2021/6	32401	3,800	3,344	
古文書研究 第90号	日本古文書学会 編	2020/12	22417	3,800	3,344	
渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民 編	2021/2	22289	14,000	12,320	
古代の日本と東アジア 人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/7	22279	10,000	8,800	
新羅中古期の史的研究	武田幸男 著	2020/7	22278	12,000	10,560	
大嘗祭—隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/1	21057	3,800	3,344	
中世寺院の仏法と社会	永村真 編	2021/5	31001	12,000	10,560	
中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/2	22300	9,500	8,360	
戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/2	22301	9,000	7,920	
金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集	永井晋 編	2020/9	22288	10,000	8,800	
鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/2	22297	3,800	3,344	
中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明 著	2020/12	20077	15,000	13,200	
歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	22257	10,000	8,800	
近世大名墓の考古学—東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明 編	2020/6	22276	12,000	10,560	
儒教儀礼と近世日本社会—間齋学派の『家礼』実践	松川雅信 著	2020/7	21056	10,000	8,800	
創られた由緒—近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/6	31002	8,000	7,040	
勤番武士の江戸滞在記—国枝右馬江戸詰中日記	岩淵令治 編	2021/5	32000	10,000	8,800	
生きるための地域史—東海地域の動態から	中村只吾・渡辺尚志 編	2020/10	22290	8,000	7,040	
日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	22266	6,000	5,280	
近世豪商・豪農の(家)経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	22265	10,000	8,800	
近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一／マシュー・デーヴィス 編	2020/2	22267	7,000	6,160	
江戸日本橋商人の記録—(にんべん)伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	22269	11,000	9,880	
甕に「豊後切支丹史料」—バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	22261	12,000	10,560	
琉球船漢着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 著	2020/3	29197	10,000	8,800	
新彰義隊戦史	大藏八郎 編	2020/9	22285	7,000	6,160	
明治の一発屋芸人たち—珍芸四天王と民衆世界	永瀬重敏 著	2021/1	27058	3,500	3,080	
アーネスト・サトウと蔵書の行方—『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって	小山騰 著	2020/11	20078	4,200	3,696	
土地の記憶から読み解く早稲田—江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カーロリ 著／大内紀彦、フィリッポ・ドルネッティ 訳	2021/3	22299	2,700	2,376	
ロマンフ王朝時代の日露交流	東洋文庫・生田美智子 監修／牧野元紀 編	2020/8	22286	3,800	3,344	
スイス使節団が見た幕末の日本—ブレンワルド日記1862-1867	横浜市ふるさと歴史財団・ブレンワルド日記研究会 編	2020/6	22275	9,800	8,624	
日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	22268	17,000	14,960	
日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	27055	6,500	5,720	
パブリック・ヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦【オンデマンド新版】	菅豊・北條勝貴 編	2021/5	82254	4,800	4,224	
◆新装版 唐物と東アジア—舶載品をめぐる文化交流史						
観相の文化史	河添房江・皆川雅樹 編	2021/4 二刷 (2016/2 初版)	22140	2,000	1,760	
改訂新版 中国学入門—中国古典を学ぶための13章【オンデマンド版】	相田満 著	2021/2	29203	9,000	7,920	
宋代中国都市の形態と構造	二松學舎大学文学部中国文学科 編	2021/4	80056	1,600	1,408	
描かれたマカオ—ダーウメント・コレクションにみる東西交流の歴史	伊原弘 著	2020/6	22069	4,500	3,960	
上海におけるプロテスタント—現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	貞志俊彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22262	22,000	19,360	
	村上志保 著	2020/5	21055	6,000	5,280	
◆ラジオの技術・産業の百年史—大衆メディアの誕生と変遷						
ラジオの技術・産業の百年史—大衆メディアの誕生と変遷	岡部匡伸 著	2021/3 二刷 (2020/1 2初版)	22295	5,400	4,752	
絶滅危惧種を喰らう	秋道智彌・岩崎望 編	2021/1	24014	3,200	2,816	
バリ・ノートルダム大聖堂の伝統と再生—歴史・信仰・空間から考える	坂野正則 編	2021/3	31000	8,000	7,040	
メソアメリカ文明セミナー	伊藤伸幸 監修／嘉幡茂・村上達也 編	2021/1	22296	5,000	4,400	
現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 2 ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ	石田勇治・川喜田敦子 編	2020/9	22513	6,000	5,280	

書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	割引価格	冊数
現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 3 ドイツ市民社会の史的展開	石田勇治・川喜田敦子・平松英人・辻英史 編	2020/9	22514	6,000	5,280	
「本読み」の民俗誌 交差する文字と語り	川島秀一 著	2020/6	23081	3,500	3,080	
メディアのなかの仏教 近現代の仏教的人間像	森寛 編	2020/5	21054	7,500	6,800	
浜沢敬三とアチック・ミュージアム—知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	22263	3,500	3,080	
荒れ野の六十年—東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	22264	3,200	2,816	
◆古典文学・文学史						
物語文学の諸相と展開	中野幸一 著	2021/3	39000	12,000	10,560	
中世和歌論—歌学と表現と歌人	中川博夫 著	2020/11	29199	12,000	10,560	
和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/1	29202	15,000	13,200	
真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城司・小幡伍 編著	2021/2	29204	9,000	7,920	
中国古典文学に描かれた劇・井戸・簀—民俗学的視点に基づく考察	山崎藍 著	2020/11	29200	9,000	7,920	
韓国・朝鮮説話学の形成と展開	金廣植 著	2021/2	29201	11,000	9,880	
挑発する軍記	大津雄一 著	2020/10	22292	3,800	3,344	
江戸庶民のまじない集覧—創意工夫による生き方の智慧	長友千代治 著	2020/10	20076	6,000	5,280	
医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	20072	12,000	10,560	
水門—言葉と歴史 第二十九号	水門の会 編	2020/1	22443	3,500	3,080	
本朝文粹抄 六	後藤昭雄 著	2020/2	29224	3,200	2,816	
仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首歌合 全注釈	石川一 編	2020/3	29195	10,000	8,800	
南方熊楠と日本文学	伊藤慎吾 著	2020/3	22270	7,000	6,160	
幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	29196	10,000	8,800	
明治の教養—変容する(和)漢(洋)	鈴木健一 編	2020/1	29193	7,500	6,600	
杜甫研究年報 第三号	日本杜甫学会 編	2020/5	29443	2,000	1,760	
杜甫研究年報 第四号	日本杜甫学会 編	2021/4	29444	2,000	1,760	
お伽草子超入門	伊藤慎吾 編	2020/7	29188	2,800	2,464	
白居易研究年報 最終号・第20号 特集 歌舞音曲—附 日本国内白居易研究文献解題目録	白居易研究会 編	2020/9	07098	9,000	7,920	
吉田松陰と学人たち	徳田武 著	2020/9	22291	10,000	8,800	
漱石文見本帳	北川扶生子 著	2020/12	9189	2,800	2,464	
ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京	日本近代文学館 編	2020/4	29163	2,800	2,464	
【鉄幹晶子全集40】鉄幹晶子全集 別巻8—拾遺篇 書誌・年譜	逸見久美ほか 編	2021/5	01093	9,000	7,920	
同性愛文学の系譜—日本近現代文学におけるLGBT以前/以後	伊藤氏貴 著	2020/2	29191	2,800	2,464	
平川祐弘決定版著作集 タンテ『神曲』講義	平川祐弘 著	2020/2	29422	10,000	8,800	
平川祐弘決定版著作集 西洋人の神道観—日本人のアイデンティティを求めて	平川祐弘 著	2020/3	29416	8,000	7,040	
平川祐弘決定版著作集 東の自生観と西の創造観	平川祐弘 著	2020/3	29428	4,000	3,520	
平川祐弘決定版著作集 開國の作法	平川祐弘 著	2020/4	29429	4,000	3,520	
平川祐弘決定版著作集 アーサー・ウェイラー『源氏物語』の翻訳者	平川祐弘 著	2020/7	29424	14,000	12,320	
アメリカ現代詩入門—エズラ・パウンドからボブ・ディランまで	原成吉 著	2020/2	29192	3,500	3,080	
100人の作家で知る ラテンアメリカ文学ガイドブック	寺尾隆吉 著	2020/3	29194	2,800	2,464	
◆日本語学・言語学						
ベトナム語空間ダイクシスとその展開—指示詞から文末詞・感動詞へ	安達真弓 著	2021/5	38001	10,000	8,800	
日本語文字論の挑戦—表記・文字・文献を考えるための17章	加藤重広・岡嶋裕剛 編	2021/3	38000	7,000	6,160	
コーパスと近代日本語書き言葉の一人称代名詞の研究	近藤明日子 著	2021/2	28052	8,500	7,480	
日本語記号点本の研究	鈴木豊 著	2020/3	28048	14,000	12,320	
龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版 翻刻および総索引	佐々木勇 主編	2020/4	28050	18,000	15,840	
近世後期テニヲ論の展開と活用研究	遠藤住那子 著	2020/1	28047	8,000	7,040	
論究日本近代語 第1集	日本近代語研究会 編	2020/3	28521	15,000	13,200	
サハ語文法—統語的派生と言語類型論的特異性	江畑冬生 著	2020/4	28049	9,800	8,624	
続 岐点の軌跡 老いてなお岐点あり—老いてなお岐点あり	北原保雄 著	2020/4	28503	4,500	3,960	
◆図書館学・アーカイブ						
大宅壮一文庫解体新書—雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志 編	2021/5	30001	3,500	3,080	
日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/3	20074	3,500	3,080	
ささえあ図書館—「社会装置」としての新たなモデルと役割【オンデマンド版】	青柳英治 編著／岡本真 監修	2021/3	90039	1,800	1,584	
【デジタルアーカイブ・ベシックス3】自然史・理工系研究データの活用	井上透 監修／中村寛 責任編集	2020/4	20283	2,500	2,200	
【デジタルアーカイブ・ベシックス4】アートシーンを支える	高野明彦 監修／嘉村哲郎 責任編集	2020/12	20284	2,500	2,200	
【デジタルアーカイブ・ベシックス5】新しい産業創造へ	時美家一 監修／久永一郎 責任編集	2021/5	20285	2,500	2,200	
【ライブラリーぶっくす】司書のお仕事2 本との出会いを届けます	大橋崇行 著／小曾川真貴 監修	2020/10	20075	1,800	1,584	
【ライブラリーぶっくす】変化する社会とともに歩む学校図書館	野口武悟 著	2021/4	20081	2,200	1,936	
◆統計学						
この本を書いたのは誰だ？—統計で探る「文章の指紋」	村上胜勝 著	2020/4	29198	1,800	1,584	
R・Pythonによる 統計データ科学	杉山高一・藤越康祝 監修	2020/2	24011	2,700	2,376	
◆アジア遊学						
242 中国学術の東アジア伝播と古代日本	榎本淳一・吉永匡史・河内春人 編	2020/1	22708	2,800	2,464	
243 中央アジアの歴史と現在—草原の縦断	松原正毅 編	2020/3	22709	2,400	2,112	
244 前近代東アジアにおける(術数文化)	水口幹紀 編	2020/3	22710	3,200	2,816	
245 アジアの死と鎮魂・追善	原田正俊 編	2020/3	22711	2,800	2,464	
246 和漢のコードと自然表象—十六、七世紀の日本を中心に	島尾新・宇野瑞木・亀田和子 編	2020/4	22712	2,800	2,464	
247 移動するメディアとプロパガンダ —日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術	西村正男・星野幸代 編	2020/4	22713	2,800	2,464	
248 明治が歴史になったとき 史学史としての大久保利謙	佐藤雄基 編	2020/6	22714	2,800	2,464	
249 漢学とは何か 漢唐および清中後期の学術世界	川原秀城 編	2020/7	22715	2,800	2,464	
250 酔いの文化史 儀礼から病まで	伊藤信博 編	2020/8	22716	2,800	2,464	
251 仏教の東漸と西漸	荒見泰史 編	2020/9	22717	2,800	2,464	
252 中世日本の茶と文化 生産・流通・消費をとおして	永井晋 編	2020/9	22718	2,800	2,464	
253 ポストコロナ時代の東アジア 新しい世界の国家・宗教・日常	玄武岩・藤野陽平 編	2020/9	22719	2,800	2,464	
254 東アジアの歌と文字	真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 編	2021/2	32500	2,800	2,464	
255 東アジアにおける知の往還	国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 共編	2021/3	32501	2,800	2,464	
256 元朝の歴史—モンゴル帝国期の東ユーラシア	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/6	32502	3,200	2,816	
257 交錯する宗教と民族—交流と衝突の比較史	鹿木敏夫 編	2021/7	32503	2,800	2,464	
258 史料が語る東インド航路—移動がうみだす接触領域	水井万里子・大澤広見・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/7	32504	2,800	2,464	
259 書物のなかの近世国家—東アジア「一統志」の時代	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/8	32505	3,000	2,640	
260 アヘンからよむアジア史	内田知行・権寧俊 編	2021/9	32506	2,800	2,464	
261 古典は遺産か？—日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	32507	2,800	2,464	
◆書物学						
第18巻 蔵書はめぐる 海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/7	20718	1,800	1,584	

幕末以降所在不明であつた
最古級の『論語』注釈写本が再発見された――
慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』巻六である。

慶應義塾図書館蔵

論語疏 卷六

ろんごそまきろく

慶應義塾大学

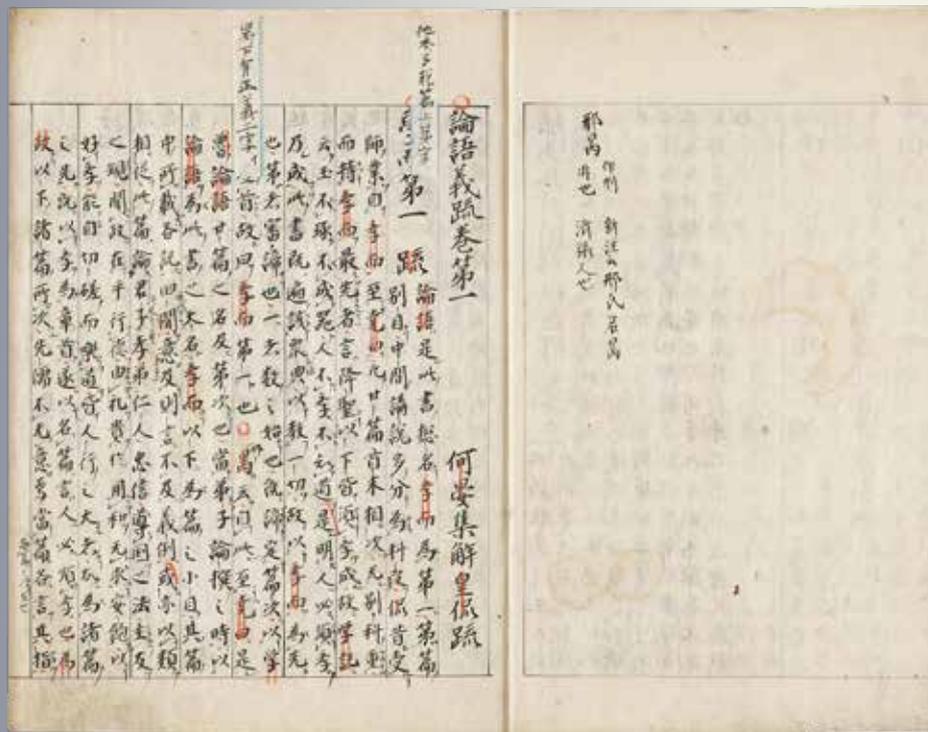
附属研究所斯道文庫蔵

論語義疏

ろんごそ

影印と解題研究

慶應義塾大学論語疏研究会(編)



国宝級の
最古写本の全編を
原寸原色にて
提供する決定版!

本体一八、〇〇〇円(十税)

A4判・上製函入・四七二頁

二〇二一年一〇月刊行

ISBN978-4-585-31004-4 C3010

勉誠出版

〔注文書〕

慶應義塾図書館蔵

論語義疏卷六

慶應義塾大学
附属研究所斯道文庫蔵

論語義疏

慶應義塾大学
論語疏研究会〔編〕

影印と解題研究

本体18,000円(+税)
A4判・上製函入
472頁(カラー336頁)
2021年10月刊行
ISBN978-4-585-31004-4 C3010

ご送付先ご住所(通信欄)

ご注文部数

貴店番線印

勉誠出版

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-18-4
TEL.03-5215-9021 FAX.03-5215-9025
Website=http://bensei.jp
Email=info@bensei.jp

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店、あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。

慶應義塾図書館蔵

論語義疏卷六

〔論語〕子罕篇と郷党篇(通行本巻五)の、ほぼ全文を伝える中国写本。字体、字様などの書写相や、装訂、紙質など書籍形態の比較検討から、原著成立から一〇〇年を経ない時期の写本と目され、最古級の伝本と位置付けられる。また、平安時代の日本の印記がありそれ以前に伝来した点にも価値がある。古代以来、朝廷周辺で秘蔵された文献である様相も有する、日本漢学の淵源となった書籍として歴史の意義も備わる。

慶應義塾大学
附属研究所斯道文庫蔵

論語義疏

文明十九年書写。『論語』の室町期写本群の中でも、最も整った姿を備える伝本。室町期特有の略字体を有し、全編を通じて統一した訓点を施した特徴をもつ。また、慶應義塾図書館蔵『論語疏』巻六との対校によって、その本文の価値が確かめられることから、『論語』二十篇を完存する『義疏』室町写本群研究に大きく寄与する。

国宝級の最古写本の全編を 原寸原色にて提供する決定版！

東アジア漢字文化圏の古典として広く諸国・諸地域の文化・思想に大きく影響を与えた『論語』。二〇一七年、幕末以降所蔵不明であった最古級の『論語』の注釈書である『論語疏』が日本国内において再発見され、二〇二〇年には展示公開、広く報道がなされた。

慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』巻六である。

同書は南北朝から隋時代(六〜七世紀初頭)における中国写本であり、『論語』およびその注釈として、さらには同時代の写本として類を見ない逸品である。本書では、同『論語疏』の全編をフルカラー原寸大で影印、初公開する。

さらには、室町期の写本群のなかでも、最も整った完本である、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵『論語義疏』(文明十九年書写大槻本)の全編もフルカラーで影印。斯界の第一線をリードする研究者による詳細な解題・翻刻・校勘記を備えた決定版。

【目次】

前言：佐藤道生

● 影印

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』巻六

慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 文明十九年写本『論語義疏』

● 解題研究

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』巻六 解題：住吉朋彦

附 橋本経亮編『遠年紙譜』所収「皇侃義疏料紙」について：一戸渉

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕寫本『論語疏』巻六 翻印並に校記：種村和史

附 慶應義塾大学図書館蔵 『論語疏』巻六校記舉例 義疏の部：種村和史

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』巻六 清家文庫本校記：齋藤慎一郎

附 慶應義塾大学図書館蔵 『論語疏』巻六の文献価値

——日本漢学研究資料としての特色：齋藤慎一郎

慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 文明十九年写本『論語義疏』 解題：住吉朋彦

附 慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 旧鈔『論語義疏』伝本解題：住吉朋彦

山岸常人・岸 泰子・登谷伸宏〈著〉

古建築調査 ハンドブック

定価1,540円(税込)

本体1,400円

A5判・並製・38頁・2021年7月刊行

ISBN978-4-585-35000-2 C0052

【出荷にお時間をいただく】
場合があります

私たちの身のまわりには多数の古建築がある。

過去に建てられた建物は、歴史的・文化的に価値があるだけでなく、我々の生活環境を形成する重要な要素として存在している。

古い建物を文化財として保存してゆくにせよ、改修して使い続けるにせよ、その建物の歴史的・文化的な価値を認識しておくことは不可欠である。

それでは、そのための調査はどのように行うのか。

寺社・民家など、古建築の歴史的・文化的価値や特質を調査する際の、調査項目・方法の要点を簡潔に解説。

歴史的な建物の調査において、
常に座右に置いておきたい待望の一冊。

〈目次〉

- 1 古建築調査の目的・手順・内容
- 2 現地調査(1)——調査票・実測図の作成と写真撮影
- 3 現地調査(2)——棟札・史料の調査
- 4 調査報告書の作成

COLUMN

- 1 調査に必要な道具・服装
- 2 建設年代の判定と編年指標
- 3 図面の浄書の工夫
- 4 寸法の測り方
- 5 寺社建築に必要な写真
- 6 現地調査後の史料調査——報告書作成にむけての準備
- 7 報告書の構成

〈執筆者プロフィール〉

山岸常人 —— 京都大学名誉教授・京都府立大学文学部特任教授

岸 泰子 —— 京都府立大学文学部歴史学科准教授

登谷伸宏 —— 京都工芸繊維大学デザイン・建築学系准教授



書名	部数
古建築調査ハンドブック 山岸常人・岸 泰子・登谷伸宏〈著〉	定価1,540円(税込) 本体1,400円 A5判・並製カバー装・46頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-35000-2 C0052
ご送付先ご住所(通信欄)	部

日本古代の 仏教者と山林修行

小林崇仁【著】

外来の宗教である仏教は、その伝来より、
広く日本の社会・文化に影響を与えてきた。

なかでも、山林に分け入ったの修行は、

仏教創始以来の伝統として時代を通じて行われてきた。

仏教伝来から間もない古代日本において、

山林修行はどのように行われ、

どのような宗教的意義を有していたのか。

奈良から平安初期において山林修行を実践した

泰澄、報恩、満願、施暁、玄賓、聴福、勝道、徳一、勤操の

九名の事績を考察、

加えて、山林修行における諸種の形態・様相を

諸資料をもとに描き出すことで、

日本古代の山林修行の総体を明らかにする。

【著者紹介】

小林崇仁（こばやし・そうじん）

蓮花寺佛教研究所研究員、真言宗智山派平福寺住職。

共著に『頼瑜撰』真俗雜記問答鈔の研究（ノンブル社、二〇二二年）。主な論文に『諏訪の神宮寺』（福田晃・徳田和夫・二本松康宏編『諏訪信仰の中世』神話伝承・歴史『三弥井書店、二〇一五年』）、『勝道上人の生涯』（『山岳修験』第六〇号、二〇一七年）、『東草集』に見る根来寺の追善儀礼（『佛教文学』第四二号、二〇一七年）などがある。

【目次】

序論

第一部●山林修行の先駆者たち

- 第一章 泰澄——泰澄伝に見る山林修行者像——
- 第二章 報恩——報恩伝の史実性——
- 第三章 満願——神宮寺建立の背景——

第二部●朝廷による山林修行者への信仰と支援

- 第一章 施暁——施暁の奏上と梵釈寺の造営——
- 第二章 玄賓——嵯峨天皇からの殊遇——
- 第三章 聴福——玄賓との類似性——

第三部●山林修行者による社会的実践行

- 第一章 勝道——日光山開山の意義——
- 第二章 徳一——東国に垂迹した菩薩——
- 第三章 勤操——官大寺僧の幅広い実践行——

第四部●山林修行の種々相

- 第一章 斗敷——勝道と徳一と空海の共通点——
- 第二章 乞食と蔬食——山林修行の経済基盤——
- 第三章 道俗相集——山林寺院での諸活動——

結論

あとがき／初出一覧／索引



定価 二二,二〇〇円(税込)

(本体二二,〇〇〇円)

A5判上製カバー装・六五六頁

二〇二二年八月刊行

ISBN978-4-585-31003-7 C3015

書名	部数
日本古代の仏教者と山林修行 小林崇仁【著】	部
定価13,200円(税込)・本体12,000円 A5判・上製カバー装・656頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-31003-7 C3015	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

首里城を解く

高良倉吉 [監修]
島村幸一 [編]

文化財継承のための礎を築く

首里城を歴史的・文化的に 考えるために

中国や日本、東南アジアなどとの海を越えた交流により独自の文化を築いた琉球王国。首里城は、その政治・外交の中心を担い、琉球王国の文化の豊穡さを体現する一大建造物である。数度の火災、琉球処分や沖縄戦等、歴史の荒波のなかでその大部分を損壊することとなったが、数多の人びとの尽力により、首里城復元事業が推進され、二〇〇〇年には世界遺産として登録されることとなった。

しかし、二〇一九年(令和元年)十月三十一日未明、首里城を火災がおそい、正殿と北殿、南殿が全焼し、その再建・復元は喫緊の課題として、現在検討が進められている。失われた首里城を取り戻すために、いま、必要な知識は何か。

考古学・歴史学・建築学・文学等、諸分野の第一人者を集結、首里城の歴史と文化を解き明かし、再建に向けた礎を提示する画期的な書。

【監修者・編者紹介】

高良倉吉 (たからくらよし)

琉球大学名誉教授・元沖縄県副知事。専門は琉球王国史。首里城復元の委員。著書に『琉球王国史の探求』(榕樹書林、二〇一一年)など。

島村幸一 (しまむらこういち)

立正大学文学部教授。専門は琉球文学・琉球文化史。著書に『琉球文学の歴史叙述』(勉誠出版、二〇一五年)、『琉球船漂着者の「聞き書」世界―「大島筆記」翻刻と研究』(編著、勉誠出版、二〇二〇年)など。

【目次】

序文：島村幸一
首里城を創る ― 正殿を中心に…高良倉吉

●考古学から

首里城の原点についての一考察
― グスク時代の遺跡で見られる隔離空間を再考する…山本正昭
出土陶磁器から見た首里グスク…瀬戸哲也
「コラム」トカラ、三島の城郭遺跡…伊藤慎二
「コラム」宮古・八重山諸島のグスク時代石積遺構について
…久貝弥嗣

●歴史学から

古琉球期における首里城の様相と変遷…上里隆史
「コラム」絵図から見た首里城…外間政明
近世琉球期の首里城― 儀礼空間としての首里城…麻生伸一
「コラム」首里城で働く人々
― 庖丁人と琉球の料理について…山田浩世
近代の首里城 ― 県民に開かれた御城…喜納大作

●文学・芸能から

祭場としての首里グスク…島村幸一
芸能の舞台としての首里城…茂木仁史
漢詩に詠まれた首里城…高津孝
「コラム」首里グスクの御内原…島村幸一
散文に描かれた首里グスク…仲程昌徳
短歌のなかの首里城…屋良健一郎

●建築学・工芸から

中華礼制蕃国礼執行装置としての首里城…伊從勉
首里グスクの「異産至宝」…上江洲安亨
首里グスクを中心とした衣文化
― 三山時代から近世琉球国後期頃まで…久貝典子

首里城を知るための〈入門〉 十冊…輝広志
あとがき…島村幸一

定価 **4,180** 円(税込)
[本体3,800円]
A5判・並製カバー装・336頁
ISBN978-4-585-32001-2 C1020
2021年9月刊行

書名	部数
首里城を解く 文化財継承のための礎を築く 高良倉吉 [監修] / 島村幸一 [編]	定価 4,180 円(税込) [本体3,800円] A5判・並製カバー装・336頁 ISBN978-4-585-32001-2 C1020 2021年9月刊行
ご送付先ご住所 (通信欄)	

説話の東アジア

『今昔物語集』を中心に

高陽【著】

宗教と文学の両面から二重の性格を兼ね、様々な読まれ方をしてきた『今昔物語集』。多くの文学者や研究者が説話の宝庫として注目することで、『今昔物語集』は「古典」となってきたと言える。

本書では、天竺説話の舞台でもある須弥山世界観の検証、これまで本格的に検証されていなかった天竺の無熱池論、『大唐西域記』など東アジア漢文諸資料から、図像資料などともあわせて、その表現過程の変遷について検証する。

また、中国古典や漢訳仏典を博搜し、『今昔物語集』を世界文学としての面から新たに位置づけようとした南方熊楠の方法論を、『太平広記』や『夷堅志』、『聊齋志異』への書き込みなどから解明する。

説話の源流とその変容、展開を軸に、説話文学の世界を東アジアから読み解く。

【編者紹介】

高陽（こう・よう）

一九八一年生まれ。清華大学人文学院外文学系准教授。専門は日本と東アジアの説話文学。

主な論文に「天竺『無熱池』の説話と図像―『大唐西域記』から『日本須弥天図』『玄奘三蔵絵』へ」（『日本文学』、日本文学協会、二〇一九年）、「南方熊楠と宋代の『夷堅志』―熊楠の書き込みを中心に」（『説話文学研究』第五十四号、説話文学会、二〇一九年）、「須弥山と芥子―極大と微小の反転」（『東アジア文化講座』第三巻、文学通信、二〇一九年）などがある。

【目次】

刊行に寄せて：小峯和明

はじめに

序章 今昔物語集の東アジア世界はどのように形成されたか

第一編 須弥山と天竺の説話世界

はしがき

第一章 須弥山と天上世界―ハーバード大学所蔵

第二章 『日本須弥諸天図』と中国の『法界安立図』をめぐる

第三章 東アジアの須弥山図―敦煌本とハーバード本を中心に

第四章 須弥山と芥子―極大と微小の反転

天竺神話のいくさをめぐって

―帝釈天と阿修羅の戦いを中心に

第五章 天竺無熱池の説話と図像―『大唐西域記』から

『日本須弥諸天図』『玄奘三蔵絵』へ

第六章 仏伝の鉢説話考

第七章 『大唐西域記』と金沢文庫保管の説草・『西域記伝抄』

第八章 『大唐西域記』と金沢文庫保管の『西域伝堪文』

第九章 悪龍伝説の旅―『大唐西域記』と『弁曉草』について

第二編 説話の受容と変容

はしがき

第一章 『今昔物語集』における「聖」「聖人」の用語意識

第二章 日本中世の孔子説話―『今昔物語集』を中心に

第三章 『今昔物語集』における僧の天界往還夢説話

第四章 鳥としての天狗の源流考

第五章 女犯聖人説話考―『今昔物語集』巻十第三十四話について

第六章 后と聖人―女犯の顛末

第七章 説話文学から大衆文学へ―染殿后譚を例に

第三編 南方熊楠と説話世界

はしがき

第一章 南方熊楠の比較説話をめぐる書き込み―『太平広記』

『夷堅志』と『今昔物語集』とのかわりを中心に

第二章 南方熊楠の書き込みに関する研究―『太平広記』を中心に

第三章 南方熊楠と宋代の『夷堅志』―熊楠の書き込みを中心に

第四章 南方熊楠と『聊齋志異』

終わりに／各論の初出一覧／参考文献／索引

定価 12,100円(税込)
(本体 11,000円)
A5判上製カバー装・四五六頁
二〇二一年九月刊行
ISBN978-4-585-39004-6 C3090

書名	部数
説話の東アジア 『今昔物語集』を中心に 高陽【著】	定価 13,200円(税込)・本体12,000円 A5判・上製カバー装・456頁 2021年9月刊行 ISBN978-4-585-39004-6 C3090
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

怪異学講義

王権・信仰・いとなみ

東アジア恠異学会〔編〕

この世の「不思議」を

解き明かす

神霊・崇り・天変地異……

古来、人々が畏怖を抱き、不思議だと思ひ、
息災を祈つた非日常的なコト・モノは媒介者により
どのように言語化され、表現され、
今日まで伝わってきたのか——

古記録や歴史書、説話、伝承、絵画といった
あらゆる資料を渉猟し、
王権・政治・祭祀・信仰・寺社・都市・村・
生活・暮らしなど多様なテーマから、
「怪異」とそれに対する人々の営みを読み解いた
画期的入門書。

【編者紹介】

東アジア恠異学会

二〇〇一年創立。代表は大江篤（園田学園女子大学教授）。
学会編著書として、『怪異学の地平』（臨川書店、二〇一九年）、『怪異を媒介するもの』（『アジア遊学』一八七号、勉誠出版、二〇一五年）、『怪異学入門』（岩田書院、二〇二二年）、『怪異学の可能性』（角川書店、二〇〇九年）などがある。

【目次】

序論 怪異学の視点……大江篤

総論 怪異学とは何か

日本の怪異・中国の怪異・その西方の驚異……榎村寛之
国家統治と怪異……久禮旦雄
通俗信仰と怪異
——前近代中国の基層社会における災異受容史……佐々木聡

各論 怪異から考える

第一部 王権と怪異……久禮旦雄

社寺と怪異——春日社の山木枯槁を中心に……山田雄司
奇談と武家伝——雷になった松江藩家老について……南郷晃子
鎌倉幕府と怪異——『吾妻鏡』の怪異を読む……赤澤春彦
幕末の陰陽頭・朝廷と天変……杉岳志
【コラム】古代日本への「天」の思想の伝来……細井浩志

第二部 信仰と怪異……久留島元・佐々木聡

勝利に導く祖霊……佐藤信弥
霊験・神異・感通
——中国仏教における怪異なるものへの態度……佐野誠子
道教と神降ろし……山田明広
天狗信仰と文芸……久留島元
疫病と化物……笹方政紀
【コラム】崇る「水子霊」……陳宣聿

第三部 人のいとなみと怪異……木場貴俊

村と怪異……木下浩
近世京都の小社と怪異……村上紀夫
怪物を食らう……木場貴俊
絵巻の中の神と「モノ」
——目に見えぬものをいかに描くか……山本陽子
【コラム】石を降らせるのはなにか？……化野 燐

あとがき……大江篤

定価 **3,520** 円(税込)
[本体3,200円]

四六判・並製カバー装・416頁
ISBN978-4-585-32007-4 C0021
2021年10月刊行

書名	部数
怪異学講義 王権・信仰・いとなみ 東アジア恠異学会〔編〕	部
定価 3,520 円(税込) [本体3,200円] 四六判・並製カバー装・416頁 ISBN978-4-585-32007-4 C0021 2021年10月刊行	
ご送付先ご住所（通信欄）	

藤本幸夫

〔編〕

（ふじもと・ゆきお）富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞・恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究 集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『日本現存朝鮮本研究 史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

書物・印刷・本屋

図版点数
390超

日中韓をめぐると本の文化史

6月刊行予定

〈ご予約受付中!〉

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、各国各地に於いて民間の商業出版——坊刻本——の深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、390点を超える図版資料を収載した

日中韓の知の世界を彩る
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

- 第一部 書物のかたち・書物のジャンル
- 第二部 印刷・活字・技術
- 第三部 本屋・商業出版・蔵書

〔本書の特色〕

- 書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
- 書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールスターが終結した画期的な一冊。
- 学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
- 390点を超える貴重な図版資料を収載。

定価一七、六〇〇円(税込)

(本体一六、〇〇〇円)

B5判上製カバー装・八九六頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-30002-1 C3000

執筆者一覽

- 第一部：佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤至子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
- 第二部：住吉朋彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
- 第三部：鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書名	部数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐると本の文化史	定価17,600円・本体16,000円 B5判上製カバー装・896頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-30002-1 C3000
藤本幸夫 [編]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈詳細目次〉

序文……………藤本幸夫

●第一部——書物のかたち・書物のジャンル

- 佐々木孝浩……………〈古写本〉日本の写本——装訂を中心として
- 柏崎順子……………〈江戸版〉初期出版界の様相
- 木村八重子……………〈草双紙〉「草双紙」の史的展望
- 棚橋正博……………〈黄表紙〉黄表紙
- 佐藤至子……………〈合巻〉合巻における自主規制
——「三國太郎再来伝」から「現世扶桑太郎」へ
- 鈴木圭一……………〈中本（人情本）〉中本二編三冊意識
- 石上阿希……………〈春画・艶本〉「書籍目録」にみる枕絵と好色本
- 大久保純一……………〈錦絵〉錦絵とは
- 湯浅淑子……………〈おもちゃ絵〉江戸のおもちゃ絵
- 鈴木俊幸……………〈草紙類〉上方の草紙類をめぐる
- 万波寿子……………〈仏書〉日本の仏書
- 鈴木達彦……………〈医書〉日本漢方の特質と日本医書

●第二部——印刷・活字・技術

- 住吉朋彦……………〈宋版・元版〉宋元版研究の道程
- 堀川貴司……………〈五山版〉五山版をどう考えるか
- 長澤孝三……………〈和刻本〉「和刻本」について
- 豊島正之……………〈キリシタン版〉キリシタン文獻
- 林進……………〈古活字版〉角倉素庵はなぜ出版事業を興したのか——近世初頭、草創期の古活字版
- 高木浩明……………〈古活字版〉古活字版から整版へ、整版から古活字版へ
- 森上修……………〈古活字版〉古活字版印刷と木活字駒の彫出技法
- 小秋元段……………〈出版史料としての反古〉東北大学附属図書館漱石文庫所蔵古活字版『太平記鈔・音義』表紙の復元的考察
- 渡辺守邦……………〈出版史料としての反古〉表紙裏反古・再考
- 橋口侯之介……………〈彫りと摺り〉彫師摺師から見た日本の出版形態
- 永井一彰……………〈版木〉板木の節

●第三部——本屋・商業出版・蔵書

- 鈴木俊幸……………〈日本近世の本屋〉本屋と出版——江戸時代における書籍文化の特質
- 塩村耕……………〈日本近世前期の商業出版〉近世前期の出版界と西鶴
- 長友千代治……………〈貸本屋〉貸本屋の横顔
- 岡村敬二……………〈蔵書・蒐書（日本）〉蔵書家の索引、蔵版、蔵書の行方
- 大沼晴暉……………〈蔵書・蒐書（日本）〉田中さんのおもちゃ箱——小平市立図書館蔵本
- 大沼晴暉……………〈日中韓の商業出版〉日中韓坊刻本の比較研究或いは此等二か国書物の比較研究のために
- 大木康……………〈中国の商業出版〉中国書肆史考——近世を中心に
- 大塚秀高……………〈中国の商業出版〉坊刻本と物語——口頭の物語の出版について
- 金文京……………〈中国の商業出版〉明代建陽の商業出版と通俗小説
- 上原究一……………〈中国の商業出版〉明末清初の坊刻における江西の位置付けについて
- 高橋智……………〈蔵書・蒐書（中国）〉中国の蔵書家について
- 藤本幸夫……………〈朝鮮の商業出版〉朝鮮坊刻本攷
- 李胤錫……………〈朝鮮の商業出版〉朝鮮朝出版における坊刻本の性格と位置
- 全相豆……………〈朝鮮の商業出版〉坊刻本「春香伝」の発生とその変貌について

あとがき……………藤本幸夫
執筆者覧

日本古文書学会 〈編〉

古文書への招待

過去の人びとのいとなみを読み取る

長屋王家符、北条政子書状、足利義教自筆御内書、豊臣秀吉朱印状、薩長同盟覚書裏書……

過去の人びとが書き残した「古文書」にはいったい何が書かれているのか？

古代から近代にわたる全四十五点の古文書を丹念に読み解くことで、

古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、

書かれた背景をなす歴史的事件を明らかにする。

また、文章の内容のみならず、文字の書かれ方、料紙、大きさなど、

「モノ」としての古文書にも焦点を当て、その魅力に迫る。

カラー図版をふんだんに配し、

全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した

恰好の古文書入門！

収録

①かたち

長屋王家符

他田奉部直神護解

太政官符

源頼朝寄進状

伊賀国黒田莊悪党人縁者交名

武雄社大宮司都々丸代藤原通厚軍忠状

足利義満書状案

足利義教自筆御内書

東寺款状

羽柴秀吉制札

徳川家康起請文

豊臣秀吉朱印状

開帳差免帳

交代寄合山名義蕃書置

②ひと

太政官符亨

源実朝袖判下文

右馬允康経書状

某書状案断簡

護良親王令旨

大蔵大輔某奉書

足利尊氏御判御教書

征西將軍宮令旨

今川了俊書下

栖雲斎威阿書状

白川義親書状

丹羽長秀書状

毛利輝元起請文案

黒田如水(孝高)書状

五箇条の御誓文

③ひと

僧正聖徳重文

平清盛語文

北条時政語文

源頼朝書状

北条政子書状

東大寺大勧進重源自筆書状

高麗渤海関係某書状

藤原為家讓状

足利尊氏御判御教書

沙弥惠尊(小田孝朝)書状

足利義隆御内書

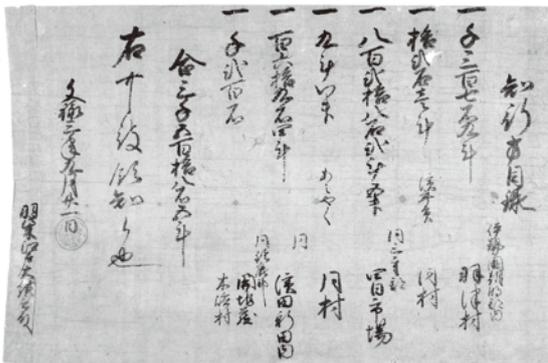
武田信玄自筆願文

織田信長印判状

豊臣秀吉知行方目録

三井八郎右衛門宛寺井庄右衛門起請文

薩長同盟覚書裏書(坂本龍馬筆)



豊臣秀吉知行方目録

関地蔵院所蔵

[画像提供・亀山市歴史博物館]

書名	部数
古文書への招待 日本古文書学会 [編]	本体3,000円(+税) B5判並製カバー装・176頁 2021年1月刊行 ISBN978-4-585-22277-4 C1021
ご送付先ご住所 (通信欄)	

増補改訂新版

日本中世史入門 論文を書こう

本体二、八〇〇円(+税)
A5判並製カバー装
六〇八頁・二〇二一年二月刊行
ISBN978-4-585-22280-4 C0021

国士館大学文学部教授

秋山哲雄

国立歴史民俗博物館・
総合研究大学院大学准教授

田中大喜

共愛学園前橋国際大学教授

野口華世

〈編〉

2014年刊行の
日本中世史入門
好評につき、
大幅増補・改訂して
絶賛発売中!
240頁増!

歴史を学び、 考えるために

「歴史」はたんに過去の出来事をわれわれに伝えるのではなく、
現代そして未来の人々の動向を規定する「力」を持っている。
そこに学問として歴史を学ぶ意義が存在している。
それでは、われわれはどのように歴史と対話すべきなのか――
歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を
日本中世史研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介、
歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。

卒論・修論の執筆、指導にも最適!

まえがき：秋山哲雄・田中大喜・野口華世

I 「歴史学」を学ぶということ

II 論文を書こう――歴史学研究の方法を学ぶ

III 日本中世史研究の現在

中世撰関家論●中世的権門としての撰関家：高松百香
院政論●政治史と家族史の融合：佐伯智広
平家政権論●平家政権論の軌跡とこれから：前田英之

中世前期国家財政論●税制・財政史から中世国家・社会の成立を考えるために：守田逸人

荘園史研究●中世天皇家の荘園の意味を考える：野口華世

中世武士論●中世武士のとりえ方はどう変わったか：伊藤瑠美

鎌倉幕府論●中世の特質を明らかにする：秋山哲雄

鎌倉幕府武士論●鎌倉幕府を支える様々な人々：赤澤春彦

鎌倉期守護論●幕府による全国統治の実態に迫る：西田友広

中世前期法制史研究●鎌倉幕府の法と裁判へのまなざし：木下竜馬

鎌倉幕府御家人制論●鎌倉幕府御家人制が中世後期に遺したものは何か：清水 亮

中世武士団論●中世の武士と社会の特質を考える：田中大喜

朝廷下級官人論●朝廷を支える官僚システム：遠藤珠紀

室町殿論●新たな権力者像の発見：大田壮一郎

室町期守護論●室町期守護論の「これまで」と「これから」：大藪 海

中世後期法制史研究●室町幕府法からみた中世後期の「法」の特質：松園潤朗

中世寺院史●中世寺院と顕密体制を考える：石田浩子

中世村落・環境史●生活の舞台としての村落をどうとらえるか：高木徳郎

中世交通・流通論●水陸のみちを考える：藤本頼人

中世都市論●都市の輪郭について考える：三枝暁子

中世身分論●身分と集団から中世社会を考える：辻 浩和

中世東国史研究●地域史と国家史のあいだで：植田真平

中世日本・東アジア交流史●外国との関わりを考える：伊川健二

中世日本境界領域論●東アジア交流の玄関口としての境界領域：荒木和憲

古文書学を学ぶ人のために●史料論の時代における古文書学の可能性：佐藤雄基

中世絵画史料論●絵画にかくされたもうひとつの日本文化：黒田 智

中世考古資料論●中世考古学の方法：村木二郎

執筆者一覧
あとがき：増補改訂版の刊行に寄せて：秋山哲雄・田中大喜・野口華世
研究概念・用語索引

書名	部数
増補改訂版 日本中世史入門―論文を書こう 秋山哲雄・田中大喜・野口華世〈編〉	本体3,800円(+税) A5判並製カバー装・608頁 2021年2月刊行 978-4-585-22280-4 C0021
ご送付先ご住所（通信欄）	

日本古文書学会編集

古文書研究

第91号

2021年6月

定価	4,180	円(税込)・本体 3,800 円
B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁		
ISBN978-4-585-32401-0 C3321		
2021年6月刊行		

歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。
その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

目次

カラー口絵

論文

- 醍醐寺における法流相承と文書・聖教の生成——報恩院隆源を通して—— …… 佐藤亜莉華
- 室町幕府における侍所・山城守護の管轄領域区分 …… 松井直人
- 任官料足請取状(「饗料腰差酒肴」請取状)の検討 …… 村上絢一

特別寄稿 日唐の改元と大赦——水上雅晴編・高田宗平編集協力

- 『年号と東アジア——改元の思想と文化——』(八木書店、二〇一九年)に寄せて …… 金子修一

研究ノート 「忽那一族軍忠次第」の成立 …… 山内 讓

史料紹介 伝『大外記中原師生母記(播磨局記)』文禄四年別記 …… 遠藤珠紀

追悼文 鈴江英一先生の想い出 …… 丸島和洋

古文書めぐり 石水博物館の歴史資料 …… 桐田貴史

随筆 古典と公家文化——戦国期の公家日記に見る—— …… 湯川敏治

研究余滴 将軍足利義晴上臈一対局と京都 …… 木下昌規

書評と紹介

- 明治大学広開土王碑拓本刊行委員会編／吉村武彦・加藤友康・徐建新・吉田悦志
『明治大学図書館所蔵 高句麗広開土王碑拓本』 …… 荊木美行
- 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所編
『藤原宮木簡四』(奈良文化財研究所史料第九十一冊) …… 武井紀子
- 佐々木恵介著『日本古代の官司と政務』 …… 徳竹亜紀子
- 倉本一宏著『御堂関白記』の研究』 …… 近藤好和
- 工藤浩編『先代旧事本紀論——史書・神道書の成立と受容』 …… 松本郁代
- 近藤剛著『日本高麗関係史』 …… 高 銀美
- 矢田俊文編『戦国期文書論』 …… 黒嶋 敏
- 一柳廣孝著『怪異の表象空間 メディア・オカルト・サブカルチャー』 …… 田部井隼人
- 中元崇智著『明治期の立憲政治と政党——自由党系の国家構想と党史編纂——』 …… 福井 淳
- 稲岡勝著『明治出版史上の金港堂——社史のない出版社「史」の試み』 …… 佐々木千恵

日本古文書学会二〇二〇年度総会要旨

彙報

口絵解説 仙台藩土青田家文書 二十一通 …… 荒木和憲

英文レジュメ

書 名	部 数
古文書研究 第91号 日本古文書学会 [編]	定価4,180円(税込)・本体3,800円 B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-32401-0 C3321
ご送付先ご住所(通信欄)	

渤海の古城と国際交流

清水信行・鈴木靖民^[編]

本体14,000円(+税)

B5判上製カバー装・496頁

2021年2月刊行

ISBN978-4-585-22289-7・C3020

考古学・文献史学より「海東の盛国」の実態を
明らかにする画期的論集

7世紀末から10世紀前半、中国東北部・ロシア沿海地方・朝鮮半島北部にまたがり展開した渤海国。唐や日本など周辺諸国との交易で栄え、当時の東アジア情勢において「海東の盛国」と称されるほどの古代国家であったが、資・史的制約により、長らくその具体的な様相を詳らかに把握することが困難であった。しかし、冷戦終結に伴い、旧渤海地域における考古学調査・研究が飛躍的に進み、渤海国の政治・行政制度、国際交流の諸相、文化受容の有り様などが明らかになってきた。30年に亘る考古学・文献史学の国際共同研究より得た知見から最新の研究成果を提示する画期的論集。

【目次】

序言●清水信行・鈴木靖民

第I部●渤海の統治制度と国際交流

第II部●クラスキノ古城の機能と性格

第III部●沿海地方渤海遺跡の出土遺物

あとがき●清水信行

執筆者一覧／索引(人名索引・地名索引・事項索引)

※詳細目次は裏面をご覧ください。

【執筆者一覧(掲載順)】

清水信行

鈴木靖民

金子修一

浜田久美子

赤羽目匡由

澤本光弘

宋基豪

田村晃一

小嶋芳孝

A.L.イヴリエフ

V.I.ボルディン

酒寄雅志

中澤寛将

E.I.ゲルマン

N.V.レシチェンコ

[編者紹介]

清水信行(しみず・のぶゆき)

1949年生まれ。助東洋文庫研究員(非常勤)、青山学院大学文学部名誉教授。専門は日本考古学。

著書に『論集 沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機能と性格』(編著、青山学院大学清水研究室、2013年)、『ロシア沿海地方古代・中世城跡の門構造と鍵・錠前』(編著、青山学院大学清水研究室、2017年)、論文に「韓国論山郡開泰寺出土銘文瓦についての一考察」(『日本考古学』五、日本考古学協会、1998年)、「渤海上京龍泉府出土の平瓦・丸瓦」(田村晃一編『東アジアの都城と渤海』東洋文庫論叢第64、助東洋文庫、2005年)などがある。

鈴木靖民(すずき・やすたみ)

1941年生まれ。横浜市歴史博物館館長、淑徳大学客員教授、國學院大学名誉教授。専門は日本古代史・東アジア古代史。

著書に『日本の古代国家形成と東アジア』(吉川弘文館、2011年)、『倭国史の展開と東アジア』(岩波書店、2012年)、『比較史学への旅—ガリア・ローマから古代日本へ』(勉誠出版、2012年)、『梁職貢図と東部ユーラシア世界』(編著、勉誠出版、2014年)、『日本古代の周縁史』(岩波書店、2014年)、『相模の古代史』(高志書院、2014年)、『古代日本の東アジア交流史』(勉誠出版、2016年)、『日本古代交流史入門』(編著、勉誠出版、2017年)、『古代の日本と東アジア 人とモノの交流史』(勉誠出版、2020年)などがある。

書名	部数
渤海の古城と国際交流 清水信行・鈴木靖民 ^[編]	部
本体14,000円(+税) B5判上製カバー装・496頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22289-7・C3020	
ご送付先ご住所(通信欄)	

【目次】

序言◎清水信行・鈴木靖民

第I部◎渤海の統治制度と国際交流

交易の視角からみた渤海国◎鈴木靖民

渤海をめぐる唐代の国際関係◎金子修一

渤海の外交文書——王啓を中心に◎浜田久美子

渤海の中央官制と地方制度◎赤羽目匡由

燕雲地域の漢人と滅亡以降の渤海人——〈陳万墓誌〉〈耶律宗福墓誌〉〈高爲裘墓誌〉など遼代石刻をてがかりに◎澤本光弘

六頂山古墳群の性格と渤海建国集団◎宋基豪(清水信行訳)

〔研究ノート〕渤海墓研究の検討——鄭永振の研究を中心に◎清水信行

渤海王陵・貴族墓論(その2)◎田村晃一

第II部◎クラスキノ古城の機能と性格

渤海時代のロシア沿海地方◎小嶋芳孝

考古学から見たクラスキノ古城の機能と性格◎田村晃一

クラスキノ古城の調査と沿海地方における渤海の考古学的研究◎A.L.イヴリエフ・V.I.ボルディン(清水信行訳)

沿海地方クラスキノ古城——歴史から見た特徴と機能◎A.L.イヴリエフ(垣内あと訳)

Nature and function of Kraskino walled town in Primorye region through the historical viewpoint◎A.L.Ivliev (translation by A.L.Ivliev)

渤海平地域とクラスキノ城跡——ポシエト湾周辺遺跡群の評価◎小嶋芳孝

クラスキノ古城と塩州◎酒寄雅志

〔コラム〕クラスキノ古城発掘調査30年とロ・日共同調査◎V.I.ボルディン(垣内あと訳)

Retrospective glance on 30 years of excavation of Kraskino ancient town and beginning of cooperation with Japanese archaeologists

◎V.Boldin (translation by A.L.Ivliev)

クラスキノ古城発掘調査記◎清水信行

第III部◎沿海地方渤海遺跡の出土遺物

クラスキノ城址出土土器の特質とその意義◎中澤寛将

クラスキノ古城の土器◎E.I.ゲルマン(垣内あと訳)

Pottery of Kraskinskoye walled town◎E.I.Gelman (translation by E.I.Gelman)

沿海州渤海遺跡出土瓦についての一考察◎清水信行

クラスキノ古城における特殊な遺構——瓦の側壁を持つ地下式堅穴状遺構

◎V.I.ボルディン・E.I.ゲルマン・N.V.レシチェンコ・A.L.イヴリエフ(清水信行訳)

渤海の金属製カンザシ◎小嶋芳孝

渤海・女真代城郭城門の研究◎E.I.ゲルマン(垣内あと訳)

あとがき◎清水信行

執筆者一覧

索引(人名・機関名索引／地名・史跡名索引／事項名索引(国家名・民族名含む))

工藤 隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 (編)

だいじようさい

大嘗祭

隠された古層

「一三〇〇年の伝統」をどう捉えるか

毎年一月にある五穀豊穡や国家安寧を祈る「新嘗祭」の中でも、天皇即位後初めて行う儀式である大嘗祭。

令和の天皇即位に伴う皇室行事「大嘗祭」の中心的儀式「大嘗宮の儀」は、

二〇一九年一月一四〜一五日未明にかけて行われた。

アニミズム的原理をおおもととする大嘗祭を、どのように今の時代の価値観の中に位置づけたらよいか。

民主主義、国民主権という現在の価値観の中で、

国民が自ら納得できる説明、論理は形成できるのか。

大嘗祭の本質の側から、今とこれからの時代の大嘗祭、

ひいては天皇制のあり方を考えるための視座を与える一冊。

「編者プロフィール」

工藤 隆 (くどう たかし) 大東文化大学名誉教授。

主な著書に『大嘗祭の始原』(三書房、一九九〇年)、『雲南省へー民族歌垣と日本古代文学』(勉誠出版、二〇〇六年)、『古事記の起源』(中公新書、同、二〇一七年)ほか多数。

岡部隆志 (おかべ たかし) 共立女子短期大学名誉教授。

専門は日本古代文学、近現代文学、民俗学。主な著書に『古代文学の表象と論理』(武威野書院、二〇〇三年)、『短歌の可能性』(ながらみ書房、二〇一五年)、『アジア歌垣論 附中国雲南省白族の歌掛け資料』(三弥井書店、二〇一八年)などがある。

遠藤耕太郎 (えんどう こうたろう) 共立女子大学文学部教授。

専門は日本古代文学、中国少数民族文化。主な著書に『モノ人母系社会の歌世界調査記録』(大修館書店、二〇〇三年)、『古代の歌—アジアの歌文化と日本古代文学』(瑞木書房、二〇〇九年)、『万葉集の起源—東アジアに息づく抒情の系譜』(中公新書、二〇二〇年)などがある。

「目次」

『大嘗祭 隠された古層』刊行の意義 ● 遠藤耕太郎

大嘗祭と天皇制 ● 工藤 隆

大日本帝国憲法・旧皇室典範と天皇制／日本国憲法・新皇室典範と天皇制／大嘗祭の源流／天皇の超越性／天武持統政権—日本の統治機構のスタート／大宝律令に見る天皇祭祀の本質／大嘗祭における祭神／皇祖アマテラス祭神説が抱える問題／大嘗祭の特徴をまとめると／大嘗の祭祝詞に見る大嘗祭の構造／天皇の曖昧さと秘儀の役割

秘儀としての大嘗祭—曖昧なる天皇の超越性 ● 岡部隆志

天皇の超越性／大嘗祭の二つのとらえ方／天皇が帯びる霊威の解釈／曖昧さこそが大嘗祭の本質／大嘗祭における祭神／皇祖アマテラス祭神説が抱える問題／大嘗祭の特徴をまとめると／大嘗の祭祝詞に見る大嘗祭の構造／天皇の曖昧さと秘儀の役割

シンポジウム討議 大嘗祭 隠された古層

パネリスト ● 工藤隆・岡部隆志 司会 ● 遠藤耕太郎

大嘗祭の古層／天武持統朝と大嘗祭／大嘗祭と情念／大嘗祭と女性性・天皇制／曖昧な大嘗祭と日本／祀る神と祀られる神／ツカサの就任儀礼と大嘗祭／東アジアの新嘗儀礼

大嘗祭を取材して ● 高島博之

はじめに／退位の意向／大嘗祭の位置づけ／秋篠宮さまの反発／大嘗祭とは何か／実際の大嘗祭

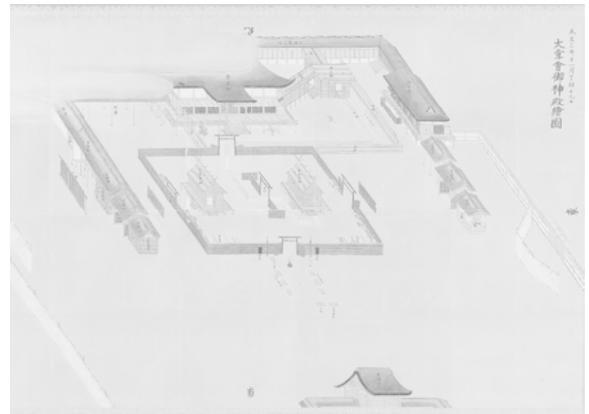
● 座談会 大嘗祭の今とこれから

● 工藤 隆・岡部隆志・山田直巳・高島博之 司会 ● 遠藤耕太郎
大嘗祭の捉え方／折口信夫の大嘗祭論／秋篠宮発言をめぐって／世界文化遺産としての大嘗祭／天皇が継承するもの／天皇の根拠／皇位継承のこれから／天皇制のこれから

● 付録資料 マレー半島セランゴール地方の収穫儀礼

● W・W・スキート (翻訳) 遠藤見和
稲魂の回収儀式の準備／田で母穂束から稲魂を取る儀式／稲魂を再生させる儀式／三日後の脱穀と乾燥／母穂束に関する儀式／新嘗の祝宴／最後の稲穂の収穫

あとがき ● 岡部隆志



大嘗会御神殿絵図 (國學院大學図書館蔵)

本体 3,800 円(+税)
四六判並製カバー装・296頁
ISBN978-4-585-21057-3 C1014
2021年2月刊行

書名	部数
大嘗祭—隠された古層	部
工藤 隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 (編)	部
本体 3,800 円(+税) 四六判並製カバー装・296頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-21057-3 C1014	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

中世の 博多とアジア

伊藤幸司〔著〕

中世日本における 国際交流の最前線

中世日本においてアジアへの窓口であり、アジアにおける日本への窓口でもあった博多。アジアの海商が来航する博多での貿易活動は、民間取引や国家外交など、

多様で広範な国際交流のなかで展開されていた。

また、博多で展開する宗教勢力は、こうした国際交流と密接不可分の状況で展開し、その影響はネットワークを通じて広く列島の各所にも及んでいた。

中世の博多をもつとも特徴付ける要素である「貿易」と「宗教」という視角から俯瞰的に考察し、中世日本最大の国際貿易港であり、東アジア海域有数の港湾都市であった博多の実像に迫る。

国際交流史、都市史、流通史、宗教史を架橋する新知見を提示する画期的な一書。

【著者紹介】

伊藤幸司（いとうこうじ）

九州大学大学院比較社会文化研究院教授。

専門は日本中世史・東アジア交流史。

著書に『中世日本の外交と禅宗』(吉川弘文館、二〇〇二年)、『日明関係史研究入門』(共編著、勉誠出版、二〇一五年)、『室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる』(責任編集、大内氏歴史文化研究会編、勉誠出版、二〇一九年)などがある。

【目次】

カラー口絵

凡例

序章 中世博多研究の潮流

第一部◎貿易都市博多

第一章 港町複合体としての中世博多湾

第二章 中世博多の海商と海の道——南島路をめぐる

第三章 日朝関係における偽使の時代——博多商人の視点から

第四章 中世後期の博多とアジア

第二部◎宗教都市博多

第五章 宗教都市博多の中世——寺社を中心として

第六章 博多と鎌倉——鎌倉時代の日本禅宗界

第七章 首羅山・油山と東アジア

第八章 中世の崇福寺をめぐる

第九章 博多聖福寺と臨済宗幻住派

第三部◎博多の史料研究

第一〇章 聖福寺古図と承天寺古図——描かれた戦国時代の博多

第一一章 湖心碩鼎『願賢録』について

終章 アジアのなかの港市博多

史料編◎湖心碩鼎『願賢録』

凡例

『願賢録』乾

『願賢録』坤

初出一覧

研究費使用一覧

あとがき

掲載図表一覧

参考文献一覧

索引

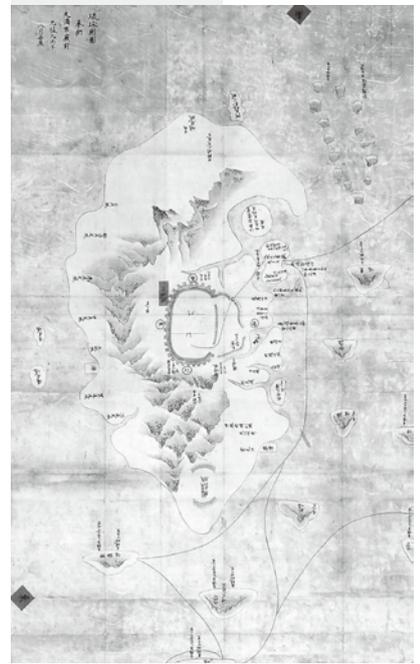
本体九、五〇〇円(＋税)

A5判・上製カバー装

口絵四頁＋本文五六〇頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-22300-9 C3020



<p>書名</p> <h1>中世の博多とアジア</h1> <p>伊藤幸司〔著〕</p>	<p>部数</p> <p>本体9,500円(＋税)</p> <p>A5判・上製カバー装 カラー口絵4頁＋本文560頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22300-9 C3020</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

儒教儀礼と 近世日本社会

松川雅信 [著]

閻斎学派の『家礼』実践

近世日本にとって儒教儀礼とは
何であったのか――

科挙のような儒教的制度を持たない一方、
仏教の葬儀や祭祀が行われていた近世日本社会。
そうした社会を生きる儒者たちは、
殊に東アジアで絶大な影響力を誇った

『家礼』記載の喪祭礼を、どのように捉え、

そしていかにして実践しようとしたのか。

長期間にわたってこの問題と真摯に向き合い続けた、

山崎闇斎を学祖とする閻斎学派に着目、

思想と社会とが様々に交錯する

現場に立ち入ること、

これまで見落とされてきた

近世日本儒教の新しい一面を照らし出す。

受賞致しました！

- 「第15回 立命館白川静記念東洋文字文化賞奨励賞」
- 「第15回 日本思想史学会奨励賞(書籍部門)」
- 「第7回 中村元東方学術奨励賞」

目次

序章

第一部 浅見綱斎とその周辺

第一章 「此方ナリ」の『家礼』実践
――基軸としての「本」と「文」

第二章 「物ナリ」の思考――「格物」と喪礼実践

第三章 「心ノ理ナリ」による来格――鬼神論と祭礼実践

第二章 閻斎学派の地域展開と『家礼』実践
――尾張と上総を中心に

第二章 尾張藩の学問所と『家礼』

第四章 尾張藩の学問所と『家礼』
――蟹養斎による喪祭礼実践の教導

第五章 寺請・寺檀体制下の『家礼』実践
――中村習斎と尾張崎門派

第六章 「反徂徠」と『家礼』実践――稲葉黙斎と上総道学

終章 あとがき

索引

本体 **10,000**円(+税)
 A5判上製カバー装・440頁
 ISBN 978-4-585-21056-6 C3010
 2020年7月刊行

「著者プロフィール」……
松川雅信 (まつかわ まさのぶ)
 日本学術振興会特別研究員。専門は日本思想史、日本近世史。
 主要論文に、「近世儒者の神代巻批判と『神道』上古」(鈴木貞斎に即して)『山下久夫斎
 藤英喜編』日本書紀1300年史を問う『思文閣出版』二〇二〇年、「近世日本の儒教儀礼と
 儒者」『東アジア思想史』のための試論的考察(桂島宣弘ほか編『東アジア 遭遇する知と
 日本』トランスナショナルな思想史の試み『文理閣』二〇一九年)、『稲葉黙斎の喪礼実践論――
 徂徠学批判・仏教認識に注目して』『第一回日本経済思想史学会賞受賞』(『日本思想史学』五
 十号二〇一八年)などがある。

書名	部数
儒教儀礼と近世日本社会 閻斎学派の『家礼』実践 松川雅信 [著]	部
本体10,000円(+税) A5判上製カバー装・440頁 ISBN978-4-585-21056-6 C3010 2020年7月刊行	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

【オンデマンド
新版】

菅
豊・北條勝貴〔編〕

パブリック・ヒストリー 入門 開かれた歴史学への挑戦

本体四、八〇〇円(+税)

A5判並製

カラー八頁+本文五〇四頁

二〇二一年三月刊行

ISBN978-4-585-82254-7 C1021

「歴史」は、誰のものか――

人びとが語り、紡いできた歴史、そして、人びとが歴史とともに、歴史を糧に生きていくという行為に目を向け、学問と社会の対話を目指す「パブリック・ヒストリー」は、いま世界的な広がりを見せている学問分野である。歴史学や社会学、文化人類学のみならず、文化財レスキューや映画製作等、さまざまな歴史実践の現場より、歴史を考え、歴史を生きる営みを紹介。人間と歴史との関わりを考え、日常に活かしていくための知識と方法を伝える貴重な一冊。パブリックヒストリーを考えるための日本初の概説書！

【編者紹介】

菅 豊（すが ゆたか） 一九六三年生まれ。東京大学大学院情報学環・学際情報学府、東洋文化研究所教授。専門は民俗学。著書に『川は誰のものか――人と環境の民俗学』（吉川弘文館、二〇〇六年）、「人と動物の日本史3――動物と現代社会」（編著、吉川弘文館、二〇〇九年）、「新しい野の学問」の時代へ――知識生産と社会実践をつなぐために（岩波書店、二〇一三年）などがある。

北條勝貴（ほつじょう かつたか） 一九七〇年生まれ。上智大学文学部教授。専門は東アジア環境文化史。著書に『環境と心性の文化史』上下（共編著、勉誠出版、二〇〇三年）、『寺院縁起の古層――注釈と研究』（共編著、法蔵館、二〇一五年）、「歴史を学ぶ人々のために――現在をどう生きるか」（共著、岩波書店、二〇一七年）などがある。

【目次】

I 理論 Theories

II 実践 Practices

歴史家とは誰か？
Who is the Historian?

協働

Collaboration

オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー
Oral History and Writing History

ミュージアムとアーカイブズ
Museums and Archives

デジタル・パブリック・ヒストリー
Digital Public History

アートと歴史映写
Art and Historiophoty

【執筆者一覧】

- 菅豊 ● 北條勝貴 ● 中澤克昭 ● 俵木悟
- 西村明 ● 市川秀之 ● 及川祥平
- 宮内泰介 ● 加藤幸治 ● 加藤圭木
- 金子祥之 ● 石井弓 ● 金菱清 ● 川田牧人
- 西村慎太郎 ● 小山亮 ● 村上忠喜
- 後藤真 ● 渡邊英徳 ● 塚原伸治
- 飯田高誉 ● 青原さとし ● 今井友樹

書名	部数
パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦 菅豊・北條勝貴〔編〕	部
本体4,800円(+税)	
A5判並製・カラー8頁+本文504頁	
2021年3月刊行	
ISBN978-4-585-82254-7 C1021	
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX ● 03-5215-9025

パブリック・ヒストリー入門

開かれた歴史学への挑戦

◆おへん

口絵

菅 豊 ●序文 パブリック・ヒストリー——現代社会において歴史学が向かうひとつの方向性

I 理論 Theories

菅 豊 ●パブリック・ヒストリーとはなにか？

北條勝貴 ●〈ありのままの事実〉を支えるもの——近代日本における歴史実践の多様性
中澤克昭 ●プラクティカル・パストと日本史——中世歴史実践史ノート

II 実践 Practices

《歴史家とは誰か？ Who is the Historian?》

俵木 悟 ●歴史と芸——神楽の過去を発掘する／演じるという歴史実践

西村 明 ●いまに生きる、いまに生かす歴史的空間における歴史実践
——「Oターン郷土誌家」を目指して

市川秀之 ●滋賀県下の字誌にみる歴史実践

及川祥平 ●〈コラム〉「武田家属将美名録」はなぜ配られたのか——ある末裔の歴史実践

《協働 Collaboration》

宮内泰介 ●「八重子の日記」をめぐる歴史実践

加藤幸治 ●更地と工事現場からの文化創造と歴史実践
——津波被災地における復興キュレーション

加藤圭木 ●朝鮮・日本の歴史認識と市民的協働
——「韓国併合」100年をめぐる日韓の運動から

金子祥之 ●〈コラム〉「歴史」を回す——オビシャ行事とオニッキをめぐる歴史実践

《オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー

Oral History and Writing History》

石井 弓 ●戦争記憶をめぐる再帰的な歴史実践
——オーラル・ヒストリーによる他者理解と自己理解

金菱 清 ●オーラル・ヒストリーの敗北宣言——想像の死者へ向けた手紙

川田牧人 ●〈コラム〉「歴史」する聖地創出

《ミュージアムとアーカイブズ Museums and Archives》

西村慎太郎 ●歴史資料の保全と地域貢献

小山 亮 ●東京大空襲・戦災資料センターを拠点とした
「東方社コレクション」をめぐる活動——共同研究の進展と成果の公開

村上忠喜 ●〈コラム〉民俗文化財に対する内部者の目線と外部者の目線

《デジタル・パブリック・ヒストリー Digital Public History》

後藤 真 ●歴史のデータは誰のものか——Digital Historyがもたらす未来とは

渡邊英徳 ●「記憶の解凍」
——資料の「フロー」化とコミュニケーションの創発による記憶の継承

塚原伸治 ●〈コラム〉歴史を刻む音楽——ある祭り囃子の「成長」

《アートと歴史映画 Art and Historiophoty》

飯田高善 ●歴史・アーカイブズ・アートの連環
——青森EARTH(2012 超群島)／

2013 すばらしい新世界——再魔術化するユートピア／
青原さとし ●映像という歴史叙述

今井友樹 ●〈コラム〉映像で文化を切り取る歴史実践の可能性と課題
——姫田忠義の映像製作

北條勝貴 ●パブリック・ヒストリアンへの道程——あとがきにかえて

新装版

唐物と東アジア

舶載品をめぐる文化交流史

固定的な東アジア観を超越する

好評につき
重版

唐物とよばれる舶載品は、奈良から平安、そして中世や近世まで、どのように受容され、日本文化史に息づいているのだろうか。唐物交易の時代的変遷とその実態からみた異国との交流史、唐物を結節点とする漢と和の関係性への分析、人物とその権力の表象としての唐物の関係性について、美術品や歴史資料のみならず、文学資料も用いて明らかにする。

もくじ

- 序にかえて：河添房江
- 「唐物」研究と「東アジア」的視点―日本古代・中世史研究を中心として：皆川雅樹
- 日本美術としての「唐物」：島尾新
- コラム―唐物と日本の古代中世：五味文彦
- 奈良時代と「唐物」：森公章
- 上代の舶載品をめぐる文化史：河添房江
- 『万葉集』と古代の遊戯―双六・打毬・かりうち：垣見修司
- 平安時代と唐物：シャルロット・フォン・ヴェアシア
- 算賀・法会の中の茶文化と『源氏物語』―書かれざる唐物：末沢明子
- コラム―唐物としての書物：小島毅
- 唐物としての黄山谷：前田雅之
- 中世唐物再考―記録された唐物：古川元也
- 戦国織豊期の唐物―唐物から名物へ：竹本千鶴
- コラム―唐物と虚栄心の話をしよう！：上野誠
- 江戸時代の唐物と日蘭貿易：石田千尋
- 琉球使節の唐旅と文化交流：真栄平房昭

新装版 あとがき：皆川雅樹
執筆者一覧

※本書は、『唐物と東アジア』（アジア遊学147号）の品切にともない、新装刊行した書籍になります。



青磁香炉
中国・元時代 | 称名寺蔵

本体 2,000円(+税)

A5判並製カバー装・208頁

2021年4月刊行

ISBN978-4-585-22140-1 C1021

河添房江・皆川雅樹 [編]

「かわぞえ・ふさぎ」一九五三年生まれ。東京学芸大学教育学部教授。平安文学を専攻。古典文学と東アジア関係を研究。主著に『源氏物語時空論』（東京大学出版会）『唐物の文化史』（岩波新書）など多数。「みながわ・まさき」一九七八年生まれ。専修大学附属高等学校教諭。専門は日本古代史。古代東アジアの交流史と政治・文化史との連関などを研究。主著に『日本古代王権と唐物交易』（吉川弘文館）など。

書名	部数
新装版 唐物と東アジア ―舶載品をめぐる文化交流史 河添房江・皆川雅樹 [編]	部
本体2,000円(+税) A5判並製カバー装・208頁 2021年4月刊行 ISBN978-4-585-22140-1 C1021	
ご送付先ご住所（通信欄）	

観相の文化史

相田 満 [著]



人相占いに代表される
「観相」の知識体系が、
文学・絵画等の表現活動に
どのような影響を及ぼしてきたか

古典的相書の記述と関連資料の分析により、
「忘れられた日本の学問」の具体相の把握、
継承性と応用の可能性を追究することを試みる。

著者プロフィール

相田 満 (あいだみつる)

国文学研究資料館および総合研究大学院大学准教授。文学博士。論著等に『元号の歴史大事典・大化から令和由来と改元の原因』(監修、くもん出版、二〇一九)「時空間とオントロジ」で見る和漢古典学」(勉誠出版、二〇一六)「古典化するキャラクター」(アジア遊学130、勉誠出版、二〇一〇)、「和漢古典学のオントロジ」(勉誠出版、二〇一七)など。

目次

序 章 ● 本書の概要

第 I 章 ● 利休の顔——観相的分析の試み

第 II 章 ● 俗相の利休——利休の顔 二
——『秀雅百人一首』に収載される異形の利休像の観相的分析

第 III 章 ● 曲亭馬琴『南総里見八犬伝』の石龍子「神相全編正義」受容
——観相的分析の試み

第 IV 章 ● 騎馬武者像再考
——足利尊氏像主説を西川祐信『絵本武者備考』と
——観相の視点から考える

第 V 章 ● 聖徳太子の観相——観相的分析の試み(渡辺信和氏と共著)

第 VI 章 ● 相書に見る声で定命を知る平安時代の観相譚
——『今昔物語集』巻六第四八の延命譚を
——敦煌文書と比較して分析する

第 VII 章 ● 異相をめぐる言説の系譜——重瞳を中心に

第 VIII 章 ● 総論的序章——まとめと補足

第 IX 章 ● 異相をめぐる言説の系譜——重瞳を中心に

第 X 章 ● 総論的序章——まとめと補足

第 XI 章 ● 異相をめぐる言説の系譜——重瞳を中心に

第 XII 章 ● 総論的序章——まとめと補足

本体九、〇〇〇円(十税)

A5判・上製カバー装

二八〇頁+カラー口絵八頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-29203-6 C3095

書名	部数
<p>観相の文化史 相田満 [著]</p>	<p>本体 9,000円(+税) A5判・上製カバー装 280頁+カラー口絵8頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-29203-6 C3095</p>
ご送付先ご住所 (通信欄)	

二松學舎大学文学部中国文学科「編」

改訂新版

中国学入門

中国古典を学ぶための13章

本体 一、六〇〇円 (+税)

A5判並製カバー装・二三二頁

二〇一七年四月刊行

ISBN978-4-585-20056-7 C1000

※本書は二松學舎大学文学部中国文学科編『中国学入門』(2015年)の改訂新版です。

「もくじ」

- 古文学学◎戸内俊介
- 中国 古代文字論——二十一世紀の古文学学
- 古代歴史書◎小方伴子
- 物語伝承と歴史書——晋文公の放浪譚と史書「国語」
- コラム◎小方伴子
- 日本における「国語」の受容と訓点本
- 古代思想◎野間文史
- 経書略説——五経を中心にして
- 中国文学論◎牧角悦子
- 中国文学という方法
- 兩漢・六朝から唐代までの文学意識と詩文
- コラム◎牧角悦子
- 夏目漱石と漢詩
- 宋明思想◎田中正樹
- 宋代士大夫の思想とその展開——宋学と明学
- 古典小説◎伊藤晋太郎
- 「三国志」を文学する——「三国志」から「三国志演義」へ
- コラム◎伊藤晋太郎
- 神になった「三国志」の英雄
- 二十世紀文学◎武永尚子
- 文豪老舎——その生涯と作品
- 中国語学・中国語教育◎張佩茹
- 現代中国語文法研究与中国語教育
- 中国書道◎高澤浩一
- 偉人・王羲之と陶淵明を書く!
- 日本書道◎福島一浩
- 日本書道史が蓄えた書美
- 中国書法の摂取と創造の熱意
- 日本漢学◎町泉寿郎
- 日本漢学略史
- 日本における中国学術文化の学び
- 書誌学◎高山節也
- 漢籍書誌学のすすめ——古本整理案内記
- 古代文学◎冢井眞
- 銘文から「詩経」へ
- お役立ちサイト集/執筆者一覧



中国古典を学ぶために必携の一冊!

中国の文学・歴史・思想・芸術などの文化を研究する「中国学」。歴史をひもとけば分かるように、私たちの精神や思想の背景には、広く中国や朝鮮半島など東アジアからの影響がある。中国学を学ぶことは、自分自身を知ることにつながるだろう。古代から二〇世紀にいたる中国文化の展開や日本における影響を概観し、その豊穡な世界を分かりやすく紹介する。

書名	部数
改訂新版中国学入門【オンデマンド版】 中国古典を学ぶための13章 二松學舎大学文学部中国文学科「編」	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

和漢朗詠集とその享受 増訂版

三木雅博〈著〉

本体 一五、〇〇〇円(+税)
A5判上製カバー装・四八〇頁
二〇二〇年十二月刊行
ISBN978-4-585-29202-9 C3091

*『和漢朗詠集とその享受』
(勉誠出版、一九九五年)の
増補改訂版です。

【目次】

まえがき

序文 伊藤正義

増訂版の刊行にあたって

序 『和漢朗詠集』研究史の沿革と本書

第I篇：『和漢朗詠集』の構成

一 『和漢朗詠集』全般の構成

―『古今集』をはじめとする勅撰和歌集との関において―

二 『和漢朗詠集』上巻四季部の構成―先行詞華集との関連において―

三 『和漢朗詠集』下巻雑部の構成―先行詞華集との関連において―

四 『和漢朗詠集』八月十五夜・月部の構成―都の月・他郷の月―

五 『和漢朗詠集』の部立「白」に関する考察

―『朗詠集』の構成と周辺の資料から―

六 『和漢朗詠集』帝王・親王・丞相部の所収和歌をめぐって

―『古今集』序・同序古注(公任注)とのかかわりを視野において―

第II篇：『和漢朗詠集』の本文

一 『和漢朗詠集』の享受と諸写本の本文形態の相違

二 『和漢朗詠集』古写本における佳句本文の改変をめぐって

三 『和漢朗詠集』古写本における和歌本文の異同と部立の配列

―春部末の「藤」「躑躅」「款冬」の部立を中心に―

四 『和漢朗詠集』博士家写本の解説

―学的情報としての注記の「読み取り」―

第III篇：『和漢朗詠集』の享受と古注釈

一 院政期における和漢朗詠集注釈の展開

―『朗詠江注』から『和漢朗詠集私注』へ―

二 『和漢朗詠集私注』の方法

三 『和漢朗詠集私注』の変貌―平安末期から

室町期にかけての『和漢朗詠集』写本の動向と関連して―

四 鎌倉前期における和漢朗詠集注釈の展開

―『和漢朗詠集私注』から『和漢朗詠集永清注』『和漢朗詠註抄』へ―

五 朗詠注における説話

附篇

一 『千載佳句』の部門の構成に関する考察

―冒頭の四時部を対象として―

二 『和漢朗詠集』所引唐人賦句雑考―出処と享受の問題を中心に―

索引(事項・書名・人名・題目・詩句・和歌)

日本にもたらされた中国の漢詩文、それを承けて平安朝の文人たちがつくりあげた日本の漢詩文、一方で万葉以来展開してきた和歌、これらが享受されていく歴史の交差点に成立したのが『和漢朗詠集』である。本書は『和漢朗詠集』の成立と享受を論じることにより、和の世界が有していた流れと漢の世界からもたらされた流れが交錯し、新しい流れが生み出されていく我が国の文化の創造の過程で現れた、一つの典型的な現象を明らかにしていく。増補・改訂により待望の復刊。

【著者プロフィール】

三木雅博(みき・まさひろ)

一九五四年和歌山県生まれ。大阪市立大学大学院博士後期課程単位取得満期退学。梅花女子大学文化表現学部日本文化学科教授、博士(文学)。

専門は日中比較文学、平安朝文学。

著書に『平安詩歌の展開と中国文学』(和泉書院、一九九九年)、『平安朝漢文学鈎沈』(和泉書院、二〇一七年)、角川ソフィア文庫『和漢朗詠集現代語訳付き』(株式会社KADOKAWA、二〇一三年)など。

書名	部数
和漢朗詠集とその享受 増訂版 三木雅博〈著〉	部
本体 15,000円(+税) A5判上製カバー装・480頁 2020年12月刊行 ISBN978-4-585-29202-9 C3091	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

中国古典文学に

描かれた厠・井戸・簪

かわや

かんざし

——民俗学的視点に基づく考察

山崎藍 [著]

「境界」を探る

中国古典文学に描かれる厠や井戸、それにまつわる道具や、井戸の周囲などを「めぐる」という行為には、どのような観念が存在していたのか。「異空間」のひとつとしても位置づけられている厠、そして厠神の存在。文言小説で描かれる「境界としての井戸」の発想を用いて作られた元稹の「夢井」。白居易「長恨歌」におけるかんざし描写の独自性……古代中国の人々がそれらの場所・道具・行為をどのように認識し、如何にその象徴性を詩歌に反映させたかを綿密な資料調査と分析から考察する。従来、等閑視されてきた民俗学的視点から、詩歌研究の新たな可能性を探る快著。

「著者プロフィール」

山崎藍 (やまざき あい)

青山学院大学文学部准教授。専門は中国古典文学。主論文に「京都大学人文科学研究所蔵『天地瑞祥志』第十六翻刻校注——『醴泉』井」(名和敏光編『東アジア思想・文化の基層構造——術数と』天地瑞祥志』汲古書院、二〇一九年)、「白居易新築府井底引銀瓶止淫奔也」に詠われる「瓶沈簪折」について——唐詩に垣間見える術数文化」(水口幹記編『前近代東アジアにおける術数文化』アジア遊学 二四四、二〇二〇年、勉誠出版)などがある。

「目次」

緒言

第一章 正と負の厠神
——中国における厠観

第二章 元稹「夢井」考
——中国における井戸観

第三章 元稹「夢井」における「邊井」の意味
——死者を悼む旋回儀礼

第四章 李白「長干行二首 其二」における「邊牀」
——婚姻に関する旋回儀礼

第五章 李賀「後園鑿井」考
——釣瓶と轆轤に託されたもの

第六章 白居易「長恨歌」の試み
——かんざしの喪失と破鏡重円故事

附 流れる汗・にじむ汗
——白居易における舞妓の汗描写を中心に

補論一 京都大学人文科学研究所蔵『天地瑞祥志』第十六翻刻校注
——『醴泉』井

補論二 日本の古典文学における井戸描写概説

あとがき

主要参考文献一覧

英文摘要・中文摘要

索引(人名索引・作品名索引・書名索引)

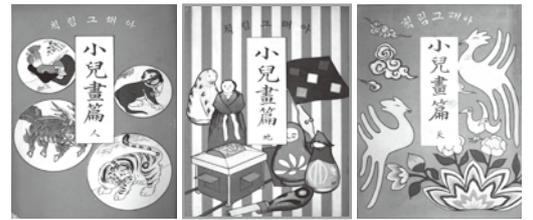


本体 九,〇〇〇円(+税)

A5判上製カバー装・三三六頁
二〇二〇年十一月刊行
ISBN978-4-585-29200-5・C3098

書名	部数
<p>中国古典文学に描かれた厠・井戸・簪 ——民俗学的視点に基づく考察</p> <p>山崎藍 [著]</p>	<p>本体 9,000円(+税)</p> <p>A5判上製カバー装・336頁 ISBN 978-4-585-29200-5・C3098 2020年11月刊行</p>
ご送付先ご住所(通信欄)	

韓国・朝鮮 説話学の 形成と展開



金廣植 著

Kim Kwangshik (キム・クワンシク)

一九七四年韓国生まれ。東京学芸大学大学院修了(博士)。延世大学校・東京理科大学・横浜国立大学・埼玉大学などの非常勤講師、日本学術振興会特別研究員PDを経て、『東方学志』実践民俗学研究などの編集委員、立教大学兼任講師。主な著書に、『植民地期における日本語朝鮮説話集の研究』(帝国日本の「学知」と朝鮮民俗学)勉誠出版、二〇一四年、『植民地朝鮮近現代説話』(民俗苑、二〇一五年)、『近代日本の朝鮮口碑文学研究』(寶庫社、二〇一八年)、共編著に、『植民地時期日本語朝鮮説話集資料叢書』全13冊(J&C、二〇二二)、『二〇一四年』編著に、『近代日本語朝鮮説話集資料叢書』全4冊(寶庫社、二〇一八年)など多数。

近代教育及び植民地経験を経た韓国・朝鮮民間説話の近代的変容を捉える。

日本人研究者の植民地主義・朝鮮人研究者の抵抗民族主義という

二分法的な図式が散見される朝鮮民俗学史。しかし、そこには日本人研究者の

果たした役割とその影響がきわめて大きく、朝鮮民間説話学は近代日本の

学知の影響を受けながら形成されたものであった。

未公開資料・新出資料を含めた膨大な近代資料を収集・整理・分析し、

説話のモチーフや構造的形式の影響関係に注目。

説話の歪曲という観点を乗り越え、近現代の韓国・朝鮮民間説話学の形成過程を

総合的に分析し、個別説話の伝承とその変容を複合的に捉えなおし、

その意味を考察する。東アジア比較民間説話学を新たに再構築する基盤を提供する一冊。

〈もくじ〉

序章

第1編 朝鮮総督府学務局の民間伝承調査と教科書

- 第1章 日本と植民地朝鮮で実施された民間伝承調査
- 第2章 朝鮮総督府朝鮮語教科書に収録された俚諺の収録過程
- 第3章 民間説話調査の内容とその意味
- 第4章 朝鮮総督府学務局編輯課と朝鮮民俗資料
- 第5章 朝鮮総督府編纂『国語読本』研究の現状と課題
- 第6章 韓国教科書における伝承童話の収録過程

第2編 朝鮮説話・童話集の刊行と比較説話学の展開

- 第1章 帝国日本の「日本」説話集における朝鮮と台湾
- 第2章 ドイツ文学者田中梅吉と朝鮮初の童話集及び絵本
- 第3章 朝鮮語で刊行された童話集と沈宜麟
- 第4章 朝鮮童話集における改作の様相
- 第5章 1920年前後における日韓比較説話学の展開
- 第6章 孫晋泰の東アジア民間説話論

第3編 韓国・朝鮮民間説話の近代的変容

- 第1章 民間説話の変容と壬辰倭乱(文祿・慶長の役)
- 第2章 植民地期朝鮮における日韓共通の昔話「瘤取り」
- 第3章 韓国における兄弟譚及び隣人譚の変容
- 第4章 朝鮮総督府編修官立柄教俊と「もの言う亀」
- 第5章 植民地期朝鮮における「三年峠」(三年坂)
- 第6章 近現代における「きこりと仙女」(天人女房譚)の展開

終章

参考文献 ◎ハンゲル及び漢文文献◎日本語文献
初出一覧/あとがき/索引

本体 一一、〇〇〇円(十税)

A5判上製カバー装・四六四頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-29201-2 C3098



書名	部数
韓国・朝鮮説話学の形成と展開	
金廣植 [著]	
本体 11,000円(+税)	
A5判上製カバー装・464頁	
2021年2月刊行	
ISBN978-4-585-29201-2 C3098	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

杜甫研究年報

日本杜甫学会「編」

「詩聖」杜甫。

その詩は、それ以前の詩の総括であるとともに、以後の中国詩の出発点でもある。

日本においては、五山の僧の崇敬、芭蕉の傾倒があり、明治以後も、中江兆民・島崎藤村・正岡子規を始め、

知識人・国民の間で、その親愛の念は一貫して揺るがないものだった。漢文教育においても、杜甫の詩は教材の中で重要な位置を占めてきた。

世界における杜甫への関心を見つめつつ、変転する時の中で無窮の未来に向かって杜甫研究を発展させ続ける一冊。

【最新号】

第四号 目次

- 論文 ● 杜甫詩の真偽——「哭長孫侍御」札記——◎後藤秋正
- 論文 ● 杜詩における「齒」について◎大橋賢一
- 論文 ● 杜甫の詩における鷓鴣詠◎高岡遼
- 論文 ● 杜甫、そして白居易へ——「醒」の快適◎下定雅弘
- 論文 ● 杜甫詩における双声韻の諸相◎丸井 憲
- 論文 ● 仁甫聖寿抄『統臆断』（慶應義塾大学斯道文庫所蔵）瞥見◎太田 亨
- 「研究概況及び文献収録」
- 書評 ● 『李白と杜甫の事典』（大修館書店、二〇一九・一一）◎後藤秋正
- 日本における杜甫研究集録（二〇一九）◎大橋賢一・加藤聰・紺野達也
- 日本杜甫学会会則・彙報・編集後記

定価 二,二〇〇円(税込)

〔本体二,〇〇〇円〕

A5判並製・一〇四頁

二〇二一年四月刊行

ISBN978-4-585-39444-0 C3098

注文書

書名	部数
杜甫研究年報 第四号 日本杜甫学会〔編〕 定価2,200円(税込)/本体2,000円 A5判並製・104頁/2021年4月刊行 ISBN978-4-585-39444-0 C3098	部
第三号 定価2,200円(税込) 本体2,000円 A5判並製・112頁/2020年5月刊行 ISBN978-4-585-29443-6 C3098	部
第二号 定価2,200円(税込) 本体2,000円 A5判並製・88頁/2019年5月刊行 ISBN978-4-585-29442-9 C3098	部
創刊号 定価2,200円(税込) 本体2,000円 A5判並製・116頁/2018年4月刊行 ISBN978-4-585-29441-2 C3098	部
シリーズ 杜甫研究年報 〈定期購読〉 日本杜甫学会〔編〕 毎号・定価2,200円(税込)/本体2,000円 A5判並製・約100頁 2018年以降～毎年春頃、年1回刊行	部
【関連書】 白居易研究年報 全20巻セット 白居易研究会〔編〕 揃定価107,030円(税込)/本体97,300円 各巻A5判並製	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

ベトナム語 空間ダイクシスと その展開

指示詞から
文末詞・感動詞へ

安達真弓 著

本体11,000円(+税)・本体10,000円
A5判上製カバー装・268頁
2021年5月刊行
ISBN978-4-585-38001-6 C3087

ベトナム語における
指示詞・文末詞・感動詞の形式的な類似は、
偶然の産物か。

現代ベトナム語における3要素の比較を通して、指示詞から文末詞・感動詞
へという変化の方向を検証。言語類型論にも新たな実証的データを提供する。
ベトナム語の指示詞を体系的に扱う、日本初の研究書。

本書の特色

- ◎ベトナム語における近・中・遠3系列の指示詞の間の違いを明らかにする
- ◎指示詞・文末詞・感動詞という3要素がダイクシス表現(その解釈に発話の場の情報を必須とする表現)であるという共通項を持つことに着目し、その多様な機能を体系的に整理する。
- ◎自然談話のみならず、戯曲や小説の台詞など、話しことばに近い用例も広く収集するなど、豊富な例文を掲載。

目次

- はじめに
- 第1章…先行研究の整理と用語の定義
- 第2章…ベトナム語の指示詞
- 第3章…ベトナム語指示詞由来の文末詞
- 第4章…ベトナム語指示詞由来の感動詞
- 第5章…おわりに
—ベトナム語指示詞から文末詞・感動詞への文法化
- 引用したデータ
- 参考文献
- 付録:自然談話のデータ
- あとがき

著者プロフィール

安達真弓 (あだち・まゆみ)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、助教。専門はベトナム語の調査研究。
主な論文に“Vietnamese demonstratives *dây, đó, kia*” (2011年、*Mon-Khmer Studies Journal, Special issue 3: 1-8*)や「ベトナム語の遠称指示詞 *kia*と *kial*について」(2012年、『東京大学言語学論集』32号: 1-9)がある。

書名	部数
ベトナム語空間ダイクシスとその展開 指示詞から文末詞・感動詞へ 安達真弓 著	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

定価11,000円(税込)・本体10,000円
A5判上製カバー装・268頁
2021年5月刊行
ISBN978-4-585-38001-6 C3087

日本語 文字論の

挑戦

表記・
文字・

文献を考えるための
17章



ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字等、
世界的にも珍しい多文字種環境を有する日本語。
古来、日本人にとって「文字」は、
意思疎通のための情報ツールであると同時に、
彼我の文化に架橋するための媒体であった。
古代から現代までを視野に
「書く」「読む」「学ぶ」「残す」という文字の諸機能に着目し、
日本語における「文字論」の豊富な世界を示す初めての一冊。

加藤重広・岡墻裕剛 〈編〉

かとう・しげひろ ●一九六
四年生まれ。北海道大学文
学研究院教授(言語科学研
究室)。専門は日本語学・言
語学。著書に『日本語統語特
性論』(北海道大学出版会、
二〇一三年)、『言語学講義』
(筑摩書房、二〇一九年)な
どがある。

おかがき・ひろたか ●一九
八〇年生まれ。神戸女子大
学文学部日本語日本文学科
准教授。専門は日本語学表
記・漢字。著書に『B・H・
チェンバレン』(文字のしる
べ)『影印・研究』(編著、勉誠
出版、二〇〇八年)などがあ
る。

もくじ

まえがき 〔岡墻裕剛〕

第1部：言葉はどう書くか

日本語の表記システムとその特徴

近・現代小説の片仮名の用法一斑

古代中国語における漢字の表語現象の諸相 〔松江崇〕

平安時代の真仮名「乾善彦」

第2部：文献をどう読むか

訓点研究「超」入門 〔小助川貞次〕

篆隸万象名義における漢文節の意味注記について 〔李媛〕

図書寮本『類聚名義抄』における掲出語と注文の対応について 〔申雄哲〕

辞書と文献の比較に基づく定訓論の再検討

——キリシタン版『落葉集』と『きやとべか』を中心として 〔白井純〕

第3部：文字をどう学ぶか

『文選』の学習——訓点資料を通して見えてきたこと 〔渡辺さゆり〕

字ひの系譜とその豊饒——江戸寺子屋教科書往来物資料を中心に 〔萩原義雄〕

変体仮名を学ぶ小学生 〔岡田一祐〕

米国防海軍日本語学校の漢字教材『kanji book』 〔高田智和〕

第4部：文化をどう残すか

京都の「天橋立」を表す日本製漢字の展開と背景

——「邏」(邏)を中心に 〔笹原宏之〕

『蝦夷記』のアイヌ語申渡文における仮名の用法 〔佐藤知己〕

〔S仮名と〕Jap仮名をめぐるといづつかの問題 〔富山日出夫〕

漢字字体研究と日本古辞書データベースの構築 〔池田証壽〕

あとがき 〔加藤重広〕・執筆者一覧

定価七、七〇〇円(税込)
〔本体七〇〇〇円〕

A5判並製カバー装・四三三頁
二〇二一年三月刊行
ISBN978-4-585-38000-9 C3081

<p>書名</p> <p>日本語文字論の挑戦</p> <p>表記・文字・文献を考えるための17章</p> <p>加藤重広・岡墻裕剛 〈編〉</p>	<p>部数</p> <p>定価7,700円(税込)・本体7,000円</p> <p>A5判並製カバー装・432頁 2021年4月刊行 ISBN978-4-585-38000-9 C3081</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉

編 【アジア遊学254】

東アジアの歌と文字

声から文字へ、文字から声への往還

声の歌が文字化されたのはいつからだろうか。また、文字との出会いによって声の歌はどう変化したのだろうか。日本古代の『古事記』や『万葉集』、近世琉球の『おもろさうし』、中国少数民族の歌垣など、東アジアの様々な時代・地域・民族において創作されてきた歌表現の文字資料・音楽資料、文学・民俗学・文化人類学の分野から検討し、声と文字との共存・影響関係、豊かな歌文化の諸相を明らかにする。

目次

【序言】東アジアにおける歌と文字の出会い ●真下 厚

【総論】中国辺境民族の歌と文字のかかわり ●遠藤耕太郎

【総論】琉球歌謡の文字との出会い
——『おもろさうし』の記載法を中心に ●波照間永吉

I 日本古代における歌と文字

歌における声と文字の出会いと共存 ●岡部隆志

古代の歌の命

——ある手法の変貌について ●エルマコワ・リュドミラー

II 琉球王国・沖縄における歌と文字

琉球王国・沖縄における歌と文字 ——おもろさうし ●照屋 理

琉歌と南琉球の抒情歌の文字記録 ●波照間永吉

南島歌謡の記録と伝承の諸相 ——竹富島の巻唄をめくって ●狩俣恵一

III 中国少数民族における歌と文字

壮族の掛け合いにおける声と文字 ●手塚恵子

ペー祭文における声と文字の往還 ●遠藤耕太郎

中国湘西苗族の歌と文字 ●真下 厚

IV 資料紹介

宮古の古謡と神歌 ●本永 清

ペー族の祭文 ●遠藤耕太郎

必定才前途
一路布教心
也布即檢抄
記肝靴往住
仲怪吉小妹
嘉哈礼托佐
男女可分浮
勞伝詳是節
山伯吐双泡
刺鼓花凍滄
鶴門也添朱
登一路蓋花
到道橋赤靴
香落山字了
鶴舞坊途鶴

【編者紹介】

真下 厚 (ましもとあつし)

元立命館大学教授。専門は日本古代文学・民俗学。

主な著書に『歌を掛け合う人々 東アジアの歌文化』(共著、三弥井書店、二〇一七年)などがある。

遠藤耕太郎 (えんどうこうたろう)

共立女子大学文芸学部教授。

専門は日本古代文学と中国少数民族文化。

主な著書に『万葉集の起源—東アジアに息づく抒情の系譜—(中公新書、二〇一〇年)などがある。

波照間永吉 (はてるまえいきち)

名城大学大学院国際地域文化研究科(後期博士課程)。

専門は歌謡呪。

主な編著書に『定本 おもろさうし』(外間守善と共編著、角川書店、二〇〇二年)、などがある。



本体 2,800円(+税)
A5判並製カバー装・208頁
ISBN978-4-585-32500-0 C1390
2021年2月刊行

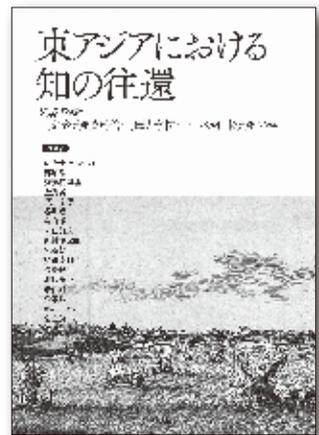
書名	東アジアの歌と文字 【アジア遊学No.243】 真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 [編]	部数	1部
本体価格	2,800円(+税)	ISBN	ISBN978-4-585-32500-0 C1390
発行	2021年2月刊行	ページ数	208頁
送料	ご送付先ご住所(通信欄)		

国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院

〔共編〕

東アジアにおける知の往還

〔アジア遊学255〕



東アジアにおける知の動態を明視する

気候危機にパンデミック、市民間の分断……。生命をも脅かす大きな困難が次々に起こる現代、我々はいかにして大量の情報を「個」として的確に受け止め、判断の材料に変換できるのか。そのための「知」を下支えするものの根拠を豊富な文献に求め、歴史的経緯を留めた表現の集合体から照射することで新規の問いかけに繋げる。文学史、美術史、思想史、歴史学、アーカイブズ学など、多面的な視角から、東アジアにおける知の往還を描き出す。

〔目次〕

序

刊行によせて ● ロバートキャンベル

刊行によせて ● 鄭炳浩

本書の企画と構成 ● 齋藤真麻理・金秀美

I 書物と文化

『栄花物語』と朝鮮王朝の宮廷文学

——『閑中録』との比較を中心として ● 桜井宏徳

遺稿集の季節——二十世紀前半の日本の言説編制 ● 谷川恵一

近代日本の元寇図と『蒙古襲来絵詞』 ● 金容澈

（コラム）絵画と文字の表現コード

——『源氏物語絵巻』を読み解く ● 金秀美

（コラム）奈良絵本と『徒然草』

——ジャンルを往還するメディア ● 齋藤真麻理

（コラム）正方形の本をめぐる ● 入口敦志

II 記録と記憶

日本と韓国の災難文学と記憶

——セウオル号沈没事件と東日本大震災の災難詩を中心として ● 鄭炳浩

近代福島県富岡町小良ヶ浜の文書管理——複合災害・縁故地・区有文書 ● 西村慎太郎

（コラム）『三国遺事』を巡るいくつかの知見について ● 宋洗範

言語と滅刑——森鷗外『高瀬舟』において ● 野網摩利子

（コラム）在日朝鮮人「帰国事業」の記録と記憶の文学 ● 金季杼

III 都市という舞台

江戸における巨大寺院の復興と講中——築地本願寺の場合 ● 渡辺浩一

日本の伝統詩歌に描かれた大都會の風土 ● 嚴仁卿

（コラム）『京城日報』と近代都市京城の表象

——横光利一の満鉄招請文学講演旅行と「天使」を中心に ● 金孝順

パリが主人公

——レティフとメルシエの作品とパリの文学的神話の誕生 ● ギョーム・カレ

（コラム）日韓の西洋探偵小説における都市表象

——エミール・ガボリオの『ルージュ事件』を中心に ● 倉在真

定価 3,080 円(税込) 本体 2,800 円
A5 判並製カバー装・200 頁
ISBN978-4-585-32501-7 C1395
2021年4月刊行

書名	東アジアにおける知の往還 【アジア遊学No.243】 国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 〔共編〕	部数	部
ご送付先ご住所（通信欄）			

櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉

編

元朝の歴史

〔アジア遊学 256〕

モンゴル帝国期の東ユーラシア

一二〇六年、チンギス・カンの即位により成立した大モンゴル国は、その後継者たちにより、ユーラシア大陸全土へその版図を広げていった。その後、皇位争いに勝利し、国号を「大元」と改めた世祖クビライが、一二七九年に南宋を攻略したことにより、中国史に新たな統一王朝の名を刻むこととなる——元朝である。中国史における「元朝」とはいかなる存在であったのか——冷戦終結に伴う史料環境・研究環境の変化により、長足の進展をなしてきたモンゴル帝国史・元朝史研究の成果を受け、元代の政治・制度、社会・宗教、文化の展開の諸相、国際関係などを多面的に考察。さらには元朝をめぐる学問史を検討することにより、新たな元朝史研究の起点を示す。

〔目次〕

- カラー口絵……『書史会要』（台湾国家図書館蔵洪武九年刊本）ほか
序言 ● 櫻井智美
導論 ● クビライ登極以前のモンゴル帝国の歴史 ● 渡辺健哉
本書所載論稿関係年表
元朝皇帝一覧
- I 元代の政治・制度
元代「四階級制」説のその後
「モンゴル人第一主義」と色目人をめぐって ● 松田善之
ジャムチを使う人たち——元朝交通制度の一断面 ● 山本明志
元代の三都（大都・上都・中都）とその管理 ● 渡辺健哉
江南の監察官制と元初の推挙システム ● 櫻井智美
〔コラム〕カラホト文書 ● 赤木崇敏
〔コラム〕元代における宮室女性の活躍 ● 牛 瀟
元末順帝朝の政局——後至元年間バヤン執政期を中心に ● 山崎 岳
- II 元代の社会・宗教
元代の水運と海運
——華北と江南はいかにして結びつけられたか ● 矢澤知行
モンゴル朝における道仏論争について
——『至元辯偽録』に見える禅宗の全真教理解 ● 松下道信
元版大蔵經の刊行と東アジア ● 野沢佳美
〔コラム〕南宋最後の皇帝とチベット仏教 ● 中村 淳
〔コラム〕夷狄に便利な朱子学——朱子学の中華意識と治統論 ● 垣内景子
回顧されるモンゴル時代——陝西省大荔県拜氏とその祖先顕彰 ● 飯山知保

III 伝統文化とその展開

- 「知」の混一と出版事業 ● 宮 紀子
白樺の生涯と文学 ● 土屋育子
「元代文学」を見つめるまなざし ● 奥野新太郎
景德鎮青花瓷器の登場——その生産と流通 ● 徳留大輔

IV 元朝をめぐる国際関係

- 「朴通事」から広がる世界 ● 金 文京
日元間の戦争と交易 ● 中村 翼
日元間の僧侶の往来規模 ● 榎本 涉
モンゴル帝国と北の海の世界 ● 中村和之
元と南方世界 ● 向 正樹

V 研究の進展の中で

- 書き換えられた世界史教科書
——モンゴルⅡ元朝史研究進展の所産 ● 村岡 倫
史料の刊行から見た二十世紀末日本の元朝史研究 ● 森田憲司
〔コラム〕チンギス・カンは源義経ではない
——同一人物説に立ちはだかる史実の壁 ● 村岡 倫
〔コラム〕モンゴル時代の石碑を探して
——桑原隲蔵と常盤大定の調査記録から ● 渡辺健哉
〔コラム〕混一疆理歴代国都之図の再発見 ● 渡邊 久

〔編者紹介〕

櫻井智美（さくらい・さとみ）

明治大学文学部准教授。専門は宋元史、モンゴル帝国史。主な論文に「曹彬不嗜殺人——元代における曹彬故事の採用とバヤンの評価」（『明大アジア史論集』二二、二〇一九年）などがある。

飯山知保（いひやま・ともやす）

早稲田大学文学学術院教授。専門は中国華北社会史。主な著書に『金元時代の華北社会と科挙制度——もう一つの「土人層」』（早稲田大学出版部、二〇一一年）などがある。

森田憲司（もりた・けんじ）

奈良大学名誉教授。専門は中国近世社会文化史。主な著書に『概説中国史 上下』（共編、執筆、昭和堂、二〇一六年）などがある。

渡辺健哉（わたなべ・けんや）

大阪市立大学大学院文学研究科教授。専門は元代都城史・近代における日中學術交流史。主な著書に『元大都形成史の研究——首都北京の原型』（東北大学出版部、二〇一七年）などがある。

定価 3,520 円(税込)
本体 3,200 円

A5判並製カバー装・322頁
ISBN978-4-585-32502-4 C1322
2021年6月刊行

書名	元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア 〔アジア遊学No.256〕 櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉〔編〕	部数	1部
ご送付先ご住所（通信欄）			

交錯する宗教と民族

鹿毛敏夫 [編]

交流と衝突の比較史

アジア遊学 257

混沌の歴史を紐解く

世界に多数存在する異宗教と多民族は、時に激しい対立や交流、融合を繰り返しながら、現代までの歴史を紡いできた。それらは、いかに顕在化しているのか。アジアとヨーロッパの東西における

人の移動と民族の越境・交流の実態、ヨーロッパ社会における政治と宗教の関係、

個々の人間の想いとその相克、さらにそこから相対化される

「国家」意識の具体的深層に迫る。

歴史学・文学・社会学・文化人類学・言語学・地域学・宗教学の分野から多角的に比較検証し、宗教・民族・国家間の共存のあり方を問い直す。



【編者紹介】

鹿毛敏夫 (かげとしお)

名古屋学院大学教授。専門は日本中世史。主な著書に『戦国大名の海外交易』（勉誠出版、二〇一九年）、編著に『大内と大友——中世西日本の二大名』（勉誠出版、二〇一三年）、『描かれたザビエルと戦国日本——西歐画家のアジア認識』（勉誠出版、二〇一七年）、『戦国大名大友氏の館と権力』（共編、吉川弘文館、二〇一八年）などがある。

【目次】

はしがき 異宗教・多民族世界の混沌

——その歴史と現在——鹿毛敏夫

第1部 ● 流動する民族社会

鎌倉北条氏と南宋禅林——渡海僧無象静照をめぐる人びと……村井章介
ドイツ語圏越境作家における言語・民族・文化をめぐる……土屋勝彦
近代名古屋にとつての中東——実業界との関係を中心に……吉田達矢
民族をめぐる対立と交流の位相
——滞日ビルマ系難民の国際移動の事例から……人見泰弘

第2部 ● 宗教の断絶と叡智

ポグダレス化する世界と日本の宗教文化……井上順孝
ラダックのアイデンティティ運動

——もうひとつの「カシミール問題」……宮坂清

インドネシア・アチエ州のイスラーム刑法と人権……佐伯奈津子
宗教と平和——宗教多元社会における戦争……黒柳志仁

第3部 ● 個の相克と相対化される「国家」

戦国大名の「国意識」と「地域国家」外交権……鹿毛敏夫
日本中世の「暴力」と現代の「教育」……メイヨー・クリストファード
一亡命作家の軌跡・西欧キリスト教世界の対岸から
——ファン・ゴイティソローの

バルセロナ、サラエヴォ、マラケシュ……今福龍太

保育園で働く看護師の語りから考える多文化共生……梶原彩子

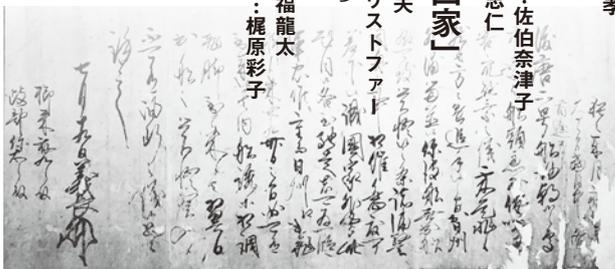


定価 二,〇八〇円 (税込)
本体 一,八〇〇円

A5判並製カバー装・二二四頁

二〇二一年七月刊行

ISBN978-4-585-32503-1 C1320



書名	部数
交錯する宗教と民族 交流と衝突の比較史 鹿毛敏夫 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

【アジア遊学 257】

定価 3,080円 (税込)・本体 2,800円

A5判並製カバー装・224頁
2021年7月刊行

ISBN978-4-585-32503-1 C1320

水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志

編

【アジア遊学258】

史料が語る

東インド航路

移動がうみだす接触領域

十五世紀末から開拓され、ヨーロッパがアジアと出会った海上路、東インド航路。この航路は、大西洋を南下して、喜望峰を越え、アジア各地へと至る長距離ルートであった。以降、スエズ運河開通によりルートや移動手段が多様化するまで、多くの人やモノがこの航路を往来し、多数の記録簿や報告書、書簡、日記などの史料群が残された。

このような史料の書き手であった移動者であるヨーロッパ人と移動先のローカルな人々との関係は、航路上にあった「接触領域」コンタクト・ゾーン」の中で取り結ばれ、記録された。航路の変遷をたどり、そこに残された史料から、現地の人々の営みや関係性、特に奴隷や移動労働者といった可視化されにくい人々の輪郭を探る。

目次

はじめに ● 水井万里子・伏見岳志・大澤広晃

I 長距離航路からみる世界

東インド航路のなかのアフリカ ● 伏見岳志
 ケープ・ルートの多様化と
 オランダ東インド会社のケープ居留地建設 ● 和田郁子
 近代中国の誕生とロバート・モリソン ● 橋本真吾
 植民地をつなぎなおす ― スペインとポルトガルの帝国再編 ● 伏見岳志
 スペインとキューバ・アフリカをつなぐ
 非合法奴隷貿易のネットワーク ● 八嶋由香利

II 史料が描く接触領域としての島々

文書館史料を通じて人と出会う
 ● マダガスカル史研究史料としてのオランダ東インド会社文書
 ● イヴェト・ランジェヴァ・ラベタフィカ、ルネ・パーシユウ、
 ナタリー・エフアーツ（末永信義・訳）
 十八世紀末から十九世紀初頭のセント・ヘレナ島における移動と接触
 ― イギリス東インド会社関連史料から ● 水井万里子

III 史料のなかのケープ植民地

豊富なデータが開く歴史
 ● ケープ植民地の統計史料 ● ヨハン・フォォーリー（訳：末永信義）
 英領ケープ植民地における陸軍と関連史料 ― 一七九五―一八二〇年 ● 辻本諭
 十八―十九世紀前半の南部アフリカにおける
 イギリス系プロテスタント宣教師
 ● 移動史料研究の前提として ● 大澤広晃
 十九世紀前半の南部アフリカにおけるウエスリアン・メソヂイスト宣教師
 史料の特徴とそのナラティブ ● 大澤広晃

IV 変貌する東インド航路と帝国

ポスターのなかのアフリカの「自然」
 ● イギリス帝国通商局によるプロバガンダの環境史的考察 ● 宮内洋平
 オランダ領東インドにおける旅券制度の展開
 ● 植民地パスポートの様式と機能をめぐって ● 吉田信
 十九―二十世紀におけるフランス植民地帝国間の移動
 ● マルセイユ・サイゴン定期便 ● 岡田友和
 【コラム】旅券のスタンプから再現する植民地と本国の移動 ● 吉田信

【編者紹介】

水井万里子（みずい・まりこ）
 九州工業大学教授。
 専門は近世近代イギリス史。
 大澤広晃（おおさわ・ひろあき）
 法政大学文学部准教授。
 専門はイギリス史・イギリス帝国史。
 杉浦未樹（すぎうら・みき）
 法政大学経済学部教授。
 専門は近世都市流通消費史。
 吉田信（よしだ・まこと）
 南山大学国際教養学部教授。
 専門は国際関係論・植民地法制史。
 伏見岳志（ふしみ・たけし）
 慶應義塾大学商学部教授。
 専門は中南米および環大西洋史。



定価 3,080円(税込)
 本体 2,800円
 A5判並製カバー装・256頁
 ISBN978-4-585-32504-8 C1322
 2021年7月刊行

書名	部数
史料が語る東インド航路 【アジア遊学No.258】 移動がうみだす接触領域 水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志【編】	定価 3,080円(税込) A5判並製カバー装・256頁 2021年7月刊行 ISBN978-4-585-32504-8 C1322
ご送付先ご住所（通信欄）	部

書物のなかの近世国家

東アジア「一統志」の時代

アジア遊学 259

王朝のすべてを志す

中国王朝が自らの領域の全体を明示すべく、各地域の歴史とデータを集積し作り上げた総合的書物「一統志」。
元・明・清において編まれたこれらの書籍は、東アジア諸国や欧州へも伝播し、
近代の地誌・歴史編纂にも影響を与えるものであった。
近代的領域認識の萌芽を体現するこれらの編纂物は、いかなる時代状況において作られたものであったのか。
編纂前史から、王朝三代にわたり編纂されたそれぞれの「一統志」のあり方、
周辺諸国や後代に与えた影響をも考察し、「一統志の時代」を浮かび上がらせる。



『大南一統志』

小二田 章 (こにた ちかきら)

早稲田大学文学学術院講師・専門は近世中国史

高井康典行 (たかい やすゆき)

早稲田大学文学学術院ほか非常勤講師・専門は契丹(遼)史

吉野正史 (よしの まさふみ)

明治大学兼任講師・専門は中国北方政治史

〔編〕

〔目次〕

序言——「一統志」の「時代」を語るために……小二田 章

1 ● 一統志以前

李吉甫の描く「一統」——『元和郡県図志』とその疆域……竹内洋介
宋朝総志編纂考——総志から方志へ……須江 隆

2 ● 大元一統志

元代における遼金代東北地域に対する地理認識の地域差
——『大元一統志』遼史』『金史』『大元混一方輿勝覧』の
地理記述の比較から……高井康典行

中国史上の「大一統」と「大元大一統志」……櫻井智美
『大元一統志』における路に関する記載について
——『大元一統志』輯本の理解のために……吉野正史

「コラム」宋元時代の道教と地誌——茅山の事例を中心に……酒井規史

3 ● 大明一統志

明代景泰——天順期の政局と一統志……高橋 亨
『大明一統志』人物伝とは——『遼東志』との関係を探る……荷見守義
『大明一統志』に関するいくつかの問題について……巴 兆祥(訳:小二田 章)
「コラム」元・明一統志の非中華世界へのまなざし……向 正樹

4 ● 大清一統志

明清期個人編全国志初探——大明から大清への「一統志」の道……小二田 章
北辺からみる『大清一統志』……柳澤 明
「コラム」ヨーロッパに伝えられた中国の地理情報
——『皇輿全覽図』の製作と宣教師の記録……澤 美香

5 ● 東アジアの一統志

中井竹山の名分論について

——他学派批判との関連を中心に……清水則夫

「津軽一統志」の編纂と弘前藩……長谷川成一

「文芸」の地誌から「口承」の地誌へ

——『信達風土雜記』と『信達一統志』……高橋章則

朝鮮近世の地理誌は誰のものだったのか……吉田光男

朝鮮燕行使の『大明一統志』輸入について……辻 大和

周縁から見た一統志——南の小中華と『大南一統志』……岡田雅志

6 ● 一統志のあなた

古典期(十〜十三世紀)イスラーム世界における地方史誌

——ウラマーの地方観と知的実践……森山史朗

小国が自ら国境線を引くとき

——デンマークの国境設定一〇〇周年に寄せて……村井誠人

「コラム」清末民国期の地方史編纂——地域と宗族を記録すること……山田 賢

日本近世地誌の編纂と地名記載……白井哲哉

編集後記……小二田 章



『新增東国輿地勝覧』

定価 二,二〇〇円(税込)
本体 三,〇〇〇円
A5判並製カバー装・二八八頁
二〇二一年八月刊行
ISBN978-4-585-32505-5 C1322

書名	部数
書物のなかの近世国家 東アジア「一統志」の時代 【アジア遊学 259】 小二田 章・高井康典行・吉野正史 〔編〕	定価 3,300円(税込)・本体 3,000円 A5判並製カバー装・288頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-32505-5 C1322
ご送付先ご住所 (通信欄)	

アヘンからよむ アジア史

アジア遊学
260

定価二、〇八〇円(税込)
本体二、八〇〇円

A5判並製カバー装・256頁
二〇二一年九月刊行
ISBN978-4-585-32506-2 C1320

内田知行
権 寧俊 [編]



【目次】

まえがき…内田知行

Ⅰ アヘンをめぐる近代アジアと西洋

アヘンをめぐるアジア三角貿易とアヘン戦争…権 寧俊
オランダ領東インドとイギリス領マラヤにおけるアヘン問題…大久保翔平
「コラム」十八世紀以前のアジアにおけるアヘン…大久保翔平
フランス領インドシナのアヘン…関本紀子
「コラム」イギリス領インドとアヘン…杉本 淨

Ⅱ 日本植民地・占領地のアヘン政策

植民地台湾のアヘンと国際アヘン問題…桂 学松
植民地朝鮮におけるアヘン政策…権 寧俊
関東州及び満洲国のアヘン政策…朴 敬玉
蒙疆政権のアヘン…堀井弘一郎
「コラム」満蒙「蒙疆」とはどこか?…堀井弘一郎
「コラム」東亜同文書院生の大旅行誌
—一〇〇年前の学生フィールドワーク…関本紀子
裁かれた日本のアヘン・麻薬政策…小林元裕

Ⅲ 現代の薬物問題

現代日本の薬物問題…真殿仁美
「コラム」多様な視点が求められる日本の薬物防止教育…真殿仁美
— 中華人民共和国の薬物問題
— 国際社会における薬物を取り巻く動きが変化するなかで…真殿仁美
「コラム」ネットワーク化する中国の薬物犯罪組織
— 対岸の火事ではない…真殿仁美
「コラム」韓国芸能界の大麻問題…権 寧俊
「コラム」ベトナムの薬物汚染事情…関本紀子
現アフガニスタンのアヘン問題…内田知行
なぜ自然保護区は麻薬取引を助長するのか
— 中米コスタリカの事例から…武田 淳

あとがき…内田知行

知られざる、
薬物と国家権力の関係

嗜好品・薬剤・媚薬として
古くから人々に摂取されてきたアヘンは、
主要財源として、東インド会社の世界進出を支え、
戦前戦中は日本の統治者を魅了した。
アヘンはいかにしてアジア諸国を蹂躪したのか?
植民地統治の影に隠された二律背反の国家戦略とは?
複雑な交易ネットワークと官僚、商人、兵士、
民間人による生産・流通・消費の実態を示し、
また、現代にもつながらるアヘン中毒、密輸入、
腐敗政治といった負の側面にも着目しながら、
植民地統治と近代的な経済発展の過程を
通史的に描き出す。

【編者紹介】

内田知行 (うちだ ともゆき)

大東文化大学名誉教授。専門は中国近現代史。著書に『黄土の大地一九三七—一九四五—山西省占領地の社会経済史』(創土社、二〇〇五年)、『歴史家が語るガイドブックにはない世界の旅』(創土社、二〇一七年)など。

権 寧俊 (こん ねいじゅん)

新潟県立大学国際地域学部教授。専門は東アジア国際関係史、国際社会学。著書に『歴史・文化からみる東アジア共同体』(編著、創土社、二〇一五年)、『朴槿恵「阿片帝国日本と朝鮮人」』(小林元裕、吉澤文寿と共訳、岩波書店、二〇一八年)など。



書名	アヘンからよむアジア史 [アジア遊学260] 内田知行・権寧俊 [編]	部数	部
ご送付先ご住所 (通信欄)		定価3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・256頁 2021年9月刊行 ISBN978-4-585-32506-2 C1320	部

古典は遺産か？

アジア遊学 261

日本文学にみける テキスト遺産の利用と再創造

Edoardo GERLINI [編]
河野貴美子

定価 二,〇八〇円(税込)
本体 二,八〇〇円

A5判並製カバー装・240頁
二〇二一年十月刊行
ISBN978-4-585-32507-9 C1395

古典テキストが伝える 人々の営為

人びとが過去から現在へと紡ぎ、
伝えてきたテキスト——「古典」。

古典を「遺産」という概念から捉えかえし、
所有性、作者性、真正性の観点から
テキストそのものや、

それらにまつわる行為や意識を歴史的に考察。

さらに、古典と社会との関係性を照らし出す

「テキスト遺産」という概念のポテンシャルを、

文学研究と経済学・文化交流史など

諸分野の視角を重ね合わせるにより提示。

文字と書物の文化研究を

新たなステージへと領導する画期的成果。

【編者紹介】

Edoardo GERLINI (エドアルド・ジェルリーニ)

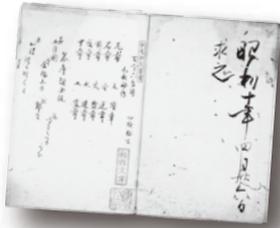
ヴェネツィア・カフオスカリ大学アジア・北アフリカ学科学研究員(兼 早稲田大学

総合人文科学研究センター) 角田柳作記念国際日本学研究所招聘研究員。

専門は日本中古文(特に和歌と漢詩)、比較文学。

河野貴美子 (こうの きみこ)

早稲田大学文学学術院教授。専門は和漢比較文学、和漢古文文献研究。



【目次】

序言… Edoardo GERLINI

【緒論】なぜ「テキスト遺産」か… Edoardo GERLINI

I ● 所有性

書物およびテキストの所有性における奥書の役割について… 佐々木孝浩
テキスト、パラテキスト、秘儀伝受
—— テキストを所有するとはどのような行為なのか？… 海野圭介

光格天皇と本居宣長——御所伝受と出版メディアをめぐって… 盛田帝子
【コラム】テキストの蒐集、収蔵、継承と「遺産化」のこと
—— 王羲之の書を例として… 河野貴美子

II ● 作者性

物語における「作者」の発生… 兵藤裕己

近世中期における「テキスト遺産」と「作者」… 飯倉洋一

【コラム】「作者」はいつ成立するか——日本上代の事例から… 高松寿夫

III ● 真正性

『枕草子』におけるテキストの真正性… 陣野英則

古典的公共圏の春——西円の源氏注釈をめぐって… 前田雅之

近世日本における『蒙求』の音声化——漢字音と連続性… 山本嘉孝

【コラム】仏教経典テキストの真正性と享受者
—— 古典文学テキストとのつながり… 阿部龍一

【特別寄稿】テキスト遺産としての古筆手鑑… Edward KAMENS

IV ● テキスト遺産の広がり

明石における龍宮イメージの形成

—— テキスト遺産としての『源氏物語』と『平家物語』をつなぐ夢… 荒木浩

【コラム】テキスト遺産としてのモニュメント
—— 平時子の例… Roberta STRIPOLI

—— 文化政策の視点から… 佐野真由子

【コラム】日本の文化経済政策

—— テキスト遺産を中心にみる現状と課題… 林原行雄

蜘蛛の巣としての電子テキスト——その来歴と現在… 稲賀繁美

テキスト遺産とは何か… Edoardo GERLINI・河野貴美子

あとがき… 河野貴美子

あとがき… 河野貴美子

書名	部数
古典は遺産か？ 日本文学にみけるテキスト遺産の利用と再創造 Edoardo GERLINI・河野貴美子 [編]	定価 3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・240頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32507-9 C1395
ご送付先ご住所 (通信欄)	